

① 学校名

② 学部、学科等名

③ 申請単位

④ 大学等の設置者 ⑤ 設置形態

⑥ 所在地

⑦ 申請するプログラム名称

⑧ プログラムの開設年度 年度 ⑨ リテラシーレベルの認定の有無

⑩ 教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

⑪ プログラムの授業を教えている教員数 人

⑫ 全学部・学科の入学定員 人

⑬ 全学部・学科の学生数 (学年別) 総数 人

1年次	<input type="text" value="1,071"/> 人	2年次	<input type="text" value="1,136"/> 人
3年次	<input type="text" value="1,175"/> 人	4年次	<input type="text" value="1,216"/> 人
5年次	<input type="text" value="0"/> 人	6年次	<input type="text" value="0"/> 人

⑭ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

⑮ プログラムを改善・進化させるための体制 (委員会・組織等)

①教務委員会
 ②阪南大学AI・データサイエンス教育研究所

(責任者名)
 (役職名)

⑯ プログラムの自己点検・評価を行う体制 (委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑰ 申請する認定プログラム

連絡先

所属部署名	阪南大学教務課	担当者名	上園 康司
E-mail	uezono@hannan-u.ac.jp	電話番号	072-332-1224

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②申請単位

大学等全体のプログラム

プログラムを構成する下記の対象科目（6科目12単位）を修得すること。
 (対象科目)
 ・AIデータサイエンス総論（別）教養演習2 a 後期2単位
 ・AI・データサイエンス入門1 前期2単位
 ・AI・データサイエンス入門2 後期2単位
 ・AI数学入門 後期2単位
 ・AIデータサイエンス基礎1 前期2単位
 ・AIデータサイエンス基礎2 後期2単位

③応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-6	1-7	2-2	2-7
AI数学入門	2	○	全学開講	○											
AI・データサイエンス入門1	2	○	全学開講		○	○	○								
AI・データサイエンス基礎1	2	○	全学開講		○	○	○								

④応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
AI・データサイエンス入門2	2	○	全学開講		○																		
AIデータサイエンス総論	2	○	全学開講	○			○	○	○	○													
AI・データサイエンス基礎1	2	○	全学開講	○																			
AI・データサイエンス基礎2	2	○	全学開講		○	○	○		○	○	○												

⑤応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	授業科目	単位数	必修	開講状況
AI・データサイエンス入門2	2	○	全学開講				
AI・データサイエンス基礎2	2	○	全学開講				

⑥選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑦ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プ</p>	<p>・ 確率・統計 (「AI数学入門」第1~2回) ・ 1変数関数の微分および偏微分 (「AI数学入門」第2~6回, 第15回) ・ 線形代数(逆行列, 固有値, 行列のべき乗) (「AI数学入門」第7~14回) ・ 基礎プログラミング実習 「AI・データサイエンス入門1」第7, 8, 9回 ・ Rプログラミング(アルゴリズム入門) 「AI・データサイエンス基礎1」第5回 ・ 基礎プログラミング実習 「AI・データサイエンス入門1」第7, 8, 9回 ・ Rプログラミング(データの表現と構造) 「AI・データサイエンス基礎1」第6回 ・ 基礎プログラミング実習 「AI・データサイエンス入門1」第7, 8, 9回 ・ Rプログラミング(プログラミングの基礎) 「AI・データサイエンス基礎1」第4回</p>
<p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1 ・ データサイエンス入門: データサイエンスとデータマイニング 「AIデータサイエンス総論」第4回 ・ 総論 (AIデータサイエンスとは) 「AI・データサイエンス基礎1」第3回 1-2 ・ AI画像認識 「AI・データサイエンス入門2」第10, 11, 12, 13, 14回 ・ データエンジニアリング(システムの分析と設計) 「AI・データサイエンス基礎2」第13回 2-1 ・ データエンジニアリング 「AI・データサイエンス基礎2」第13, 14回 3-1 ・ AI入門: AIとはなにか、AIの歴史、AIが出来ること 「AI・データサイエンス総論」第3回 ・ 人工知能の歴史 「AI・データサイエンス基礎2」第1回 3-2 ・ AIと働くということ(文系AI)、感染爆発と戦うAI: AI・データサイエンスの総合的取り組み 「AI・データサイエンス総論」第5, 13, 14回 3-3 ・ AI入門: AIとはなにか、AIの歴史、AIが出来ること 「AI・データサイエンス総論」第3回 ・ ニューラルネットワーク 「AI・データサイエンス基礎2」第11, 12回 3-4 ・ AI入門: AIとはなにか、AIの歴史、AIが出来ること 「AI・データサイエンス総論」第3回 ・ ニューラルネットワーク 「AI・データサイエンス基礎2」第11, 12回 3-9 ・ データエンジニアリング(システムの構築と運用) 「AI・データサイエンス基礎2」第14回</p>
<p>(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。</p>	<p>I あらゆる分野での活動を支えているコンピュータシステムは、機械学習タイプの新たなAI(人工知能)が中心技術として注目されるようになった。このAIについて理解し、AIを活用する事でそれぞれの専門分野のどのような問題が解決出来るのかを、検討・企画・立案できる人材が求められている。 様々な機械学習AIサービスを多く使用し、システムへの組み込みを体験する。この過程で様々なタイプのデータをAIに与えて結果を検討し、AIサービスの特性を分析できるようになる。これによりAIを用いたシステムの概要を理解し、自身の専門分野での問題を解決するAI活用システムを立案できるようになる。 「AI・データサイエンス入門1, 2」</p> <p>II 今日のインターネット社会における最先端技術とは、インターネットに刻々と蓄積されていくビッグデータを分析し活用する技術、すなわちAI技術とデータサイエンスです。本講座では、ビッグデータ時代をうまく乗りこなすためのAI・データサイエンスの諸技術について、多くの演習を通じて実践力を習得することを目指します。以下のようなデータサイエンティストに求められるスキルを学びます。 1. コンピュータサイエンス: ビッグデータを収集、加工、分析するためのプラットフォームを構築する 2. データ分析: 適した統計手法やモデリングによってデータを処理・分析する(データマイニング) 3. ビジネス: 企業の戦略、課題、外部環境などを把握した上での的確な指標を選定しデータ分析結果を評価する 「AI・データサイエンス基礎1, 2」</p>

⑧ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>データサイエンスとして、数学基礎に加え、AIを実現するための概念や知識を習得する。その上で、AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得し、データサイエンス基礎、機械学習・深層学習の基礎と展望についても学ぶ。それらを受け、データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を通じて、データサイエンティストに求められるスキルを修得する。</p>
--

⑨ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<p>https://www.hannan-u.ac.jp/special/AI2020/</p>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3年度

②申請単位

大学等全体のプログラム

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
流通学部 流通学科	230	920	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	2%
経済学部 経済学科	280	1120	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2%
経営情報学部 経営情報学科	220	880	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	7%
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	172	684	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	5%
国際観光学部 国際観光学科	157	624	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	2%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	1059	4228	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148	4%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教務委員会規程、阪南大学AI・データサイエンス教育研究所規程

② 体制の目的

<p><教務委員会> 本学に、教務に関する重要事項を審議し、かつ教務部長の日常業務の執行を補佐するため、教務委員会を置く。</p> <p><阪南大学AI・データサイエンス教育研究所> 全学的AI・データサイエンス教育を議論するための組織として、授業の提案およびその改善、進化を進めることを目的とする。</p>
--

③ 具体的な構成員

<p><教務委員会></p> <p>教務部長 流通学部 教授 早乙女 誉 経済学部教務委員 准教授 岡根 好彦 流通学部教務委員 教授 森下 信雄 経営情報学部教務委員 教授 松下 幸史郎 国際コミュニケーション学部教務委員 教授 陳 力 国際観光学部教務委員 教授 鷺崎 秀一 教務部事務部長 吉田 泰作 教務課長 浅井 輝 教育情報課長 花光 清</p> <p><AI・データサイエンス教育研究所></p> <p>研究所長 副学長 前田 利之（経営情報学部 教授） 研究員 経営情報学部 教授 松田 健 研究員 経営情報学部 教授 濱 道生 研究員 経営情報学部 教授 三好 哲也 研究員 経営情報学部 教授 伊田 昌弘 研究員 経営情報学部 教授 松下 幸史郎 研究員 経済学部 准教授 松村 幸四郎 研究員 流通学部 教授 早乙女 誉 研究員 国際コミュニケーション学部 教授 権 瞳 研究員 国際観光学部 教授 堀内 史朗</p>

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	4%	令和4年度予定	28%	令和5年度予定	53%
令和6年度予定	70%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	4,228

具体的な計画

本プログラムを構成する6科目のうち3科目については、リテラシーレベルと共通のため、履修者数については、同じく向上する。

修了者の増加に向けては、2024年度より新たなカリキュラムとなり設置母体である経営情報学部の学生のうち、AI・データサイエンスを専攻する学生（約50名程度）の大半が履修するカリキュラムを構築している。（基幹選択科目に設定する。）

他学部に関しても他学部受講科目の積極活用を呼びかけ、修了者の増加を図る予定である。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムを構成する6科目のうち3科目（AIデータサイエンス総論・AIデータサイエンス入門1/2）はリテラシーレベルの構成科目と共通で設置しており、全学対象の一般教育科目としている。

応用基礎レベル独自の3科目について経営情報学部が科目設置の母体となっているが、全学部の学生が受講できる他学部受講科目として全学開放としており、学生全員が受講可能な体制となっている。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

- ・年度はじめのガイダンスにおいてチラシの配布およびガイダンス動画を作成し、科目の重要性について周知を行っている。
- ・1年次生後期の全員履修科目（情報機器の操作に関する科目）において、担当講師から科目の案内を行い、履修を推奨している。
- ・保護者ポータルサイトにおいて、担当教員および受講者インタビュー記事を掲載し、科目の重要性とプログラムの受講推奨を呼び掛けている。
- ・リテラシーパッケージ修了者に対して、応用基礎レベル科目の履修推奨メールを配信している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

教務課においてAI・データサイエンス教育担当（兼任）を2名おき、上記ガイダンスを含め履修・習得のサポートできる体制をとっている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

コロナ禍の影響もあり、Microsoft Teams 等を活用した遠隔授業を併用した授業運営を行っていることもあり、チャット機能や、大学設置のメールシステムを用いて指導や質疑を取り扱える体制をとっている。また対面での授業の際も、授業中での指導・質疑はもちろん時間外での講師への電子メールやLMS上Q&A機能を用いたやりとりは可能となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>教務部教務課において、教務システムに蓄積される履修・成績データをもとにプログラムの履修・修得状況の調査および分析を行う。また、LMSの活用により講義の進捗状況と課題の提出状況等を把握することができる。</p> <p>授業の実施状況については、主担当教員および担当職員が定期的に科目を聴講し、受講者の状況や講義の進捗状況を把握する。また、担当講師と定期的に科目担当者会議を開催し、進捗状況の情報共有と改善を図る。</p>
学修成果	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケートのうちその結果を阪南大学AI・データサイエンス教育研究所および教務委員会と共有し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケートを通じて学生の内容の理解度や満足度を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>大学教育センターにおいて実施している授業アンケートを通じて学生の内容の理解度や満足度を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラム対象科目の前段となる情報機器の操作を学ぶ科目「情報処理入門」・「情報処理応用」について、全学部全学科の全員履修科目に統一した。また、本教育プログラム対象科目の講師と前段科目の講師間での情報共有から科目の連動性を高め、本教育プログラム履修の推奨を行っている。</p> <p>2022年度は新入生に対して履修ガイダンスにてAIデータサイエンス総論の履修を強く推奨し、入学者の約80%が履修する結果となっている。</p>
学外からの視点	

<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>2021年度からの設置プログラムであるため、修了生の卒業生はまだ出ていない。 進路状況と活躍状況については、今後キャリア支援課との連携で情報の把握を行う。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>2020年9月に開催した阪南大学「AI・データサイエンス教育研究所 開設記念講演」において、コニカミノルタ（株）近藤様をまじえてパネルディスカッションをおこない、モチベーションをいかにあげるかが大切などの意見交換をおこなった。 参考URL：https://www.youtube.com/watch?v=-PIGo6MD7c8</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>教育・啓蒙を主な目的としていないテレビ番組のコンテンツなどを活用することで、楽しさを理解してもらおうと同時に時事的な事柄もとりいれ、学ぶ意義の理解を試みている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>テレビで放送されたコンテンツなどを適宜活用し、AI・データサイエンスをとりまく種々のトピックについて出来るだけ分かりやすい入口を用意して、それと同時に適宜講義による解説を補って内容を維持、向上している。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.hannan-u.ac.jp/special/AI2020/aidate>

① 授業内容

本プログラムはリテラシーレベルを修了した学生に対して、更なる専門領域に踏み込んでもらうことを意識したプログラムとなっている。さらに本学において「エキスパートレベル」に対応する「数理・AI・データサイエンスプログラム（経営情報学部）」および「【副専攻】AI・データサイエンスプログラム（他学部）」への学修の橋渡しとなる仕組みを構築している。

○わかりやすさについて

AIデータサイエンス総論ではTV放送の録画映像等を用いて、学生の興味関心がわきやすい身近な事柄を題材にしている。データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶことができる内容としている。またLMSを活用し、授業教材を繰り返し視聴できる環境を整え、学生がいつでも反復学習が可能となる仕組みを構築している。

○学習意欲が高まる内容について

LMSを活用し、毎回の授業ごとに小課題を課し、自身の学習進捗について可視化できる仕組みを整えている。またAI・データサイエンス入門およびAI・データサイエンス基礎の授業では、課題発表を含むグループ演習や実際のプログラミング体験等を授業に組み込み、能動的な学習機会を創出している。

○学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容について

AIデータサイエンス総論ではLMSを活用し、授業教材を繰り返し視聴できる環境を整え、学生がいつでも反復学習が可能となる仕組みを構築している。

AI・データサイエンス入門では習熟度別のクラス編成を行い、習熟度にあわせた授業設計としている。さらに実際に扱うデータについては、各学部の特性に合わせたデータを用い、学生の希望する進路との関連性を感じてもらいやす工夫をしている。

AI・データサイエンス基礎では毎週の課題を複数用意し、オプションとして習熟度の高い学生がしっかり取り組めるような専門性の高い内容も提供している。

○学習環境について

2022年度入学生より全学生へのBYODを導入し、施設環境に関係なく学習機会を与えられる環境整備を行っている。

○最先端のデータサイエンス事例紹介について

学外の機関と連携により、最先端のデータサイエンス研究の紹介を行い、データサイエンスが多岐に渡る分野において重要であることを教材として示し、データサイエンスを学修する意義を実感させ、学習意欲を高めている。

② 学生への学習支援

本プログラムでは、以下の学習支援を実施している。

○学習支援システムの構築について

受講生の履修管理、課題提出、出席管理、小テストなどをLMS上で一括管理し、指導する教員が受講生の理解度・習熟度を把握しながら授業を進めることが可能となっている。

○補完的な教育の実施について

本学カリキュラムにおいて最も基盤となる授業であるAI・データサイエンス総論では初回と最終回を除き全ての授業回をオンデマンド授業（ビデオ講義）で実施し、すべての学生が自身の理解度に応じて繰り返し学習することができる環境を整えている。

○アドバイザーの配置について

学内に大学院生を含む情報系の学生をTAとして配置し、TAに対していつでも質問できる環境を整えている。

○学修成果の可視化について

LMS上で学習状況を管理し、それぞれの受講生の各種状況を評価分析できるツールを導入し、活用している。

③ その他の取組（地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携等）

・本学は、国立研究開発法人・科学技術振興機構が実施する2020年度さくらサイエンスプログラムの科学技術体験コースに「技能とAI (AI for skills) –日本の伝統技能と先端技術を俯瞰する–」のテーマで応募し、採択された。2022年3月にはコニカミノルタ株式会社と連携して、上海外国語大学との国際交流プログラム「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」をオンライン開催した。

・デジタル技術に関する知識を学ぶための施設（REDEE）を運営しているレッドホースコーポレーション株式会社と連携し、デジタル教員に関する意見を産業界からも収集している。また当企業には本学学生のインターンシップ生として受け入れや、イベントの共同運営（オンラインゲームを活用した英語教育・ドローン勉強会とレースの企画運営など）を実施している。

・本学学生がAIを活用したコミュニケーション・ロボットSota（ソータ：ヴイストーン製）を使って、大型商業施設で実証実験を今年2月22日から5月1日まで実施した。

・他機関との連携について

2022年度の統計数理研究所の共同利用研究（2022-統数研-一般研究2-00027，高分子材料のマテリアルズインフォマティクスへの挑戦）には高分子の3次元構造の解析のために本学教員も共同研究者として参加しており、国立研究開発法人である量子科学技術研究開発機構の研究者もプロジェクトチームの構成員であるため、その研究成果の一部を他機関と連携しながら授業で紹介する取り組みを実施している。

・履修証明プログラム

本プログラムを2023年度より履修証明プログラムとして社会人にも公開する。

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AIデータサイエンス総論（別）◆教養演習2 a		2	前田 利之
授業の到達目標及びテーマ(850字以内)			
AI (Artificial Intelligence, 人工知能)やロボットの技術向上により、20年後には、日本では労働人口の約半数が、AI やロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に、どんな力を身につけ、キャリアを築いていけば良いであろうか？本講義では、今、着目されている、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT 等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策を考える力を養うことを目標とする。			
授業の概要(1200字以内)			
まず AI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。			
授業計画(1450字以内)			
01. 導入(1): 本学での取り組み、AIとデータサイエンス			
02. 導入(2): AI・データサイエンス基盤としてのコンピュータ入門			
03. AI入門: AIとはなにものか、AIの歴史、AIが出来ること			
04. データサイエンス入門: データサイエンスとデータマイニング			
05. AIと働くということ(文系 AI)			
06. 「東ロボくん」を通じた AI 論			
07. AIと創作(1...「ぱいどん」)			
08. AIと創作(2...「AI 美空ひばり」での創作への挑戦)			
09. AIと創作(3...「AI 美空ひばり」と倫理的議論)			
10. AIと学習データ			
11. AIと移動(自動運転、VR・AR)			
12. AIと会話(共感)			
13. 感染爆発と戦う AI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(1)			
14. 感染爆発と戦う AI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(2)			
15. まとめ(実力テスト)			
授業外学習(予習・復習)(2200字以内)			
授業中に理解できなかった場合は必ず復習をおこなわないと、次のステップにすすめないので留意すべきである。			
授業の方法と学習上の留意点(450字以内)			
この授業では、無線LANを利用して授業中に小テストを行う。			
成績評価基準(450字以内)			
毎週の小テストと期末テストによる総合評価とする。			
教科書(450字以内)			

なし

参考文献(700字以内)

追って指示する

関連して受講することが望ましい科目(450字以内)

AI データサイエンス入門1・2

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AI・データサイエンス入門1		2	中尾 文彦・甲斐 隆浩・酒井 麻由
授業の到達目標及びテーマ(850字以内)			
<p>あらゆる分野での活動を支えているコンピュータシステムは、機械学習タイプの新たな AI(人工知能)が中心技術として注目されるようになった。この AI について理解し、AI を活用する事でそれぞれの専門分野のどのような問題が解決出来るのかを、検討・企画・立案できる人材が求められている。</p> <p>様々な機械学習 AI サービスを多く使用し、システムへの組み込みを体験する。この過程で様々なタイプのデータを AI に与えて結果を検討し、AI サービスの特性を分析できるようになる。これにより AI を用いたシステムの概要を理解し、自身の専門分野での問題を解決する AI 活用システムを立案できるようになる。</p>			
授業の概要(1200字以内)			
<p>【後期科目「AIデータサイエンス入門2」と連続した授業です】</p> <p>機械学習 AI サービスを使用したアクティブラーニングで AI の概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種 AI サービスへ様々なタイプのデータを入力し、それに対する結果を分析する事で、その特性を把握する。 ・AI サービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AI サービスの活用手法を理解する。 <p>これに必要な Python 言語の基礎的なプログラミング手法を実習する。</p> <p>自身の専門分野で役立つ AI を活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>			
授業計画(1450字以内)			
<p>第 1 回 オリエンテーション、各種 AI サービスの紹介、Python プログラミング環境の確認</p> <p>第 2 回 EXCEL でのデータ分析実習(1) 基礎統計(平均値～標準偏差 ヒストグラム)</p> <p>第 3 回 EXCEL でのデータ分析実習(2) 検定(z検定)</p> <p>第 4 回 EXCEL でのデータ分析実習(3) 検定(t検定・F検定)</p> <p>第 5 回 EXCEL でのデータ分析実習(4) 回帰分析(散布図)</p> <p>第 6 回 EXCEL でのデータ分析実習(5) 回帰分析(回帰曲線)【小課題1】</p> <p>第 7 回 基礎プログラミング実習(1) 順次構造の基礎プログラム・関数の利用</p> <p>第 8 回 基礎プログラミング実習(2) 分岐構造の基礎プログラム</p> <p>第 9 回 基礎プログラミング実習(3) ループ構造の基礎プログラム</p> <p>第 10 回 基礎プログラミング実習(まとめ)【小課題2】(課題プログラムの制作)</p> <p>第 11 回 AI マルチ言語翻訳(1) 複数言語間の機械翻訳システムプログラミング体験</p> <p>第 12 回 AI マルチ言語翻訳(2) 複数言語間の機械翻訳システムの応用例の企画</p> <p>第 13 回 AI 自然言語解析(1) 非構造化テキスト分析のシステムプログラミング体験</p> <p>第 14 回 AI 自然言語解析(2) AI自然言語解析システムの企画立案(グループワーク)【総合課題】</p> <p>第 15 回 AI 基礎まとめ AI自然言語解析システム企画のプレゼンテーション(グループワーク)</p>			
授業外学習(予習・復習)(2200字以内)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で実習したプログラムを完成させる。またそのプログラムの内容を再確認する。 ・実習時間外においても、提示した AI に対してタイプの異なる様々なデータを与える事で、AI による解析の様子を見て理解を深める。 			

- ・学内システムを用いて授業の発展学習資料を提示する。自身の学習レベルに応じた発展学習に取り組む。
- ・企画立案授業の予習として、対象の AI がどのような用途に役立つか検討しておく。
- ・グループワークで立案した AI 活用システム案を、提出期日までに個人ごとにまとめる。

授業の方法と学習上の留意点(450 字以内)

授業はパソコン教室での実習形式で、AI の利用体験やプログラミング、グループワークなどのアクティブラーニングを中心に学習する。

学内システムを用いて提示する授業資料を、授業中のみならず予習復習でも活用して AI に関する理解を深める。

<留意点>

1. 毎回、出欠をとる。パソコンの実習科目なので、毎回の出席がとても重要である。
2. 出席数は、授業回数の 3 分の 2 以上であることが単位取得のための必要条件である。
3. 講義に関係のない私語や途中退室、遅刻に対しては厳重に対処し、受講態度の悪い者には退室を命じる。

成績評価基準(450 字以内)

・成績評価の基準は平常点とする。平常点の内訳は総合課題の評価点(40%)、小課題の評価点(20%×2回)、授業参加姿勢の評価点(20%)である。

・成績を評価する際、授業態度を考慮することがある。特に授業の進行を妨げるような授業態度の者は、評価を落とす場合がある。

・追・再試験は実施しないので注意すること。

教科書(450 字以内)

無し(学内システムを用いて授業資料を提示する。)

参考文献(700 字以内)

学内システムで配信する。必要に応じて授業中に提示する。

関連して受講することが望ましい科目(450 字以内)

AIデータサイエンス総論

後期科目「AIデータサイエンス入門2」と連続して受講すること。

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AI・データサイエンス入門2		2	中尾 文彦・甲斐 隆浩・酒井 麻由
授業の到達目標及びテーマ(850字以内)			
<p>あらゆる分野での活動を支えているコンピュータシステムは、機械学習タイプの新たな AI(人工知能)が中心技術として注目されるようになった。この AI について理解し、AI を活用する事でそれぞれの専門分野のどのような問題が解決出来るのかを、検討・企画・立案できる人材が求められている。</p> <p>様々な機械学習 AI サービスを多く使用し、システムへの組み込みを体験する。この過程で様々なタイプのデータを AI に与えて結果を検討し、AI サービスの特性を分析できるようになる。これにより AI を用いたシステムの概要を理解し、自身の専門分野での問題を解決する AI 活用システムを立案できるようになる。</p>			
授業の概要(1200字以内)			
<p>【前期科目「AIデータサイエンス入門1」から連続した授業です】</p> <p>機械学習 AI サービスを使用したアクティブラーニングで AI の概要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種 AI サービスへ様々なタイプのデータを入力し、それに対する結果を分析する事で、その特性を把握する。 ・AI サービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AI サービスの活用手法を理解する。 <p>これに必要な Python 言語の基礎的なプログラミング手法を実習する。</p> <p>自身の専門分野で役立つ AI を活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>			
授業計画(1450字以内)			
<p>第 1 回 オリエンテーション、プログラミング実習(1) 基礎統計の計算</p> <p>第 2 回 プログラミング実習(2) 基礎統計の可視化(ヒストグラム)</p> <p>第 3 回 プログラミング実習(3) 回帰分析(散布図・回帰曲線)</p> <p>第 4 回 プログラミング実習(まとめ) 【小課題1】(課題プログラムの制作)</p> <p>第 5 回 AI 音声認識(1) 音声の文字起こしのシステムプログラミング体験</p> <p>第 6 回 AI 音声認識(2) 音声の文字起こしを活用するシステムの企画立案(グループワーク)【小課題2】</p> <p>第 7 回 AI 手書き文字認識(1) 手書き文字の認識の体験</p> <p>第 8 回 AI 手書き文字認識(2) 手書き文字の認識システムプログラミング体験</p> <p>第 9 回 AI 手書き文字認識(3) 手書き文字の認識システムの企画立案(グループワーク)</p> <p>第 10 回 AI 画像認識(1) 画像の内容認識システムのプログラミング体験</p> <p>第 11 回 AI 画像認識(2) 画像認識 AI システムの学習データのスクレイピング体験</p> <p>第 12 回 AI 画像認識(3) 画像認識 AI システムの評価</p> <p>第 13 回 AI 画像認識(4) 画像認識 AI システムの企画立案(グループワーク) 【総合課題】</p> <p>第 14 回 AI 画像認識(5) 画像認識 AI システム企画のプレゼンテーション(グループワーク)</p> <p>第 15 回 ゲームでの AI 活用例の紹介</p>			
授業外学習(予習・復習)(2200字以内)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で実習したプログラムを完成させる。またそのプログラムの内容を再確認する。 ・実習時間外においても、提示した AI に対してタイプの異なる様々なデータを与える事で、AI による解析の様子を見て理解を深める。 			

- ・学内システムを用いて授業の発展学習資料を提示する。自身の学習レベルに応じた発展学習に取り組む。
- ・企画立案授業の予習として、対象の AI がどのような用途に役立つか検討しておく。
- ・グループワークで立案した AI 活用システム案を、提出期日までに個人ごとにまとめる。

授業の方法と学習上の留意点(450 字以内)

授業はパソコン教室での実習形式で、AI の利用体験やプログラミング、グループワークなどのアクティブラーニングを中心に学習する。

学内システムを用いて提示する授業資料を、授業中のみならず予習復習でも活用して AI に関する理解を深める。

<留意点>

1. 毎回、出欠をとる。パソコンの実習科目なので、毎回の出席がとても重要である。
2. 出席数は、授業回数の 3 分の 2 以上であることが単位取得のための必要条件である。
3. 講義に関係のない私語や途中退室、遅刻に対しては厳重に対処し、受講態度の悪い者には退室を命じる。

成績評価基準(450 字以内)

・成績評価の基準は平常点とする。平常点の内訳は総合課題の評価点(40%)、小課題の評価点(20%×2回)、授業参加姿勢の評価点(20%)である。

・成績を評価する際、授業態度を考慮することがある。特に授業の進行を妨げるような授業態度の者は、評価を落とす場合がある。

・追・再試験は実施しないので注意すること。

教科書(450 字以内)

無し(学内システムを用いて授業資料を提示する。)

参考文献(700 字以内)

学内システムで配信する。必要に応じて授業中に提示する。

関連して受講することが望ましい科目(450 字以内)

AIデータサイエンス総論

前期科目「AIデータサイエンス入門1」から連続して受講すること。

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AI 数学入門		2	濱 道生・石田 信彦
授業の到達目標及びテーマ(850 字以内)			
<p>本講義のテーマは、AI やデータサイエンスを学ぶための数学的準備です。数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの修了を目指す人や、2 年次に AI・データサイエンス基礎1, 2の履修を考えている人にとっては特に必要な科目です。</p> <p>何より重要なのは、概念理解です。数学があまり得意ではない人でもそれなりに、数学がそれなりにできる人はしっかり理解できるようになることを目指します。</p>			
授業の概要(1200 字以内)			
<p>AI やデータサイエンスに必要な数学は、主として統計・微分・線形代数です。</p> <p>微分は高校数学の復習から始めます。</p> <p>線形代数(ベクトル, 行列)については、高校時代にベクトル(数学 B)を習っていない人もいますので、予備知識がないものとして学んでいきます。</p> <p>PC 教室を使い、毎回 PC を使って学習を進めます。</p>			
授業計画(1450 字以内)			
<p>第1回 統計の基礎</p> <p>第2回 微分係数, 導関数</p> <p>第3回 ディープラーニングと合成関数の微分</p> <p>第4回 AI と偏微分</p> <p>第5回 関数の極大・極小と偏微分</p> <p>第6回 AI における線形代数の必要性／ベクトルとは？</p> <p>第7回 ベクトルの内積とニューラルネットワーク</p> <p>第8回 勾配降下法</p> <p>第9回 行列とは？</p> <p>第 10 回 行列とベクトルの積／行列同士の積</p> <p>第 11 回 逆行列と連立方程式</p> <p>第 12 回 行列の固有値と固有ベクトル</p> <p>第 13 回 対称行列・直交行列・転置行列</p> <p>第 14 回 行列の対角化と行列のべき乗</p> <p>第 15 回 ニューロンの発火とシグモイド関数</p>			
授業外学習(予習・復習)(2200 字以内)			
<p>以下、授業計画と教科書の対応を示しますので、予習・復習の際、参考にして下さい。</p> <p>第 1 回:教科書第 12 章 12.5～12.8</p> <p>第 2 回:教科書第 10 章 10.1～10.4</p> <p>第 3 回:教科書第 10 章 10.5～10.6</p> <p>第 4 回:教科書第 10 章 10.7</p> <p>第 6 回:教科書第 11 章 11.1</p>			

第 7 回:教科書第 11 章 11.2

第 9 回:教科書 11 章 11.3

第 10 回:教科書第 11 章 11.4~11.5

第 11 回:教科書第 11 章 11.6

第 15 回:教科書第 9 章 9.6

教科書の対応する節が示されていない回は, PDF 等で教材を提供します.

教科書は、解答や Excel の操作法が説明されていますので、授業時間中は「分かったつもり」になっている可能性があります。そこで、授業終了後、授業で学んだ例題・問題の解答を見ずに自力で問題を解いてみることをお勧めします。また、時間の都合で授業では扱えなかった例題・問題・演習問題を解けば、力が付くでしょう。

授業の方法と学習上の留意点(450 字以内)

- 1 授業計画に示したものは目安であって、ずれが生じることがあります。
- 2 クラスによって、一部単元の省略や追加があることがあります。

成績評価基準(450 字以内)

成績は、定期試験 40 点, 平常点 60 点で評価します。

1 年次配当科目ですので、努力を認める評価をする予定です。

教科書(450 字以内)

『EXCEL で学ぶ社会科学系の基礎数学 第 2 版』(濱道生著 晃洋書房)

教科書購入済を前提として講義を行いますので、全員購入のこと。

参考文献(700 字以内)

「ディープラーニングが分かる数学入門」(涌井著 技術評論社)

なお、高校での「参考書」とは異なり、参考文献は購入を義務づけるものではありません。

関連して受講することが望ましい科目(450 字以内)

AI データサイエンス総論、AI データサイエンス入門 1・2、AI データサイエンス基礎 1・2

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AI・データサイエンス基礎1（別）◆先端技術論		2	前田 利之

授業の到達目標及びテーマ(850字以内)

今日のインターネット社会における最先端技術とは、インターネットに刻々と蓄積されていくビッグデータを分析し活用する技術、すなわち AI 技術とデータサイエンスです。本講座では、ビッグデータ時代をうまく乗りこなすための AI・データサイエンスの諸技術について、特にデータマイニング技術を中心に多くの演習を通じて実践力を習得することを目指します。本当にスキルを得たい受講者を想定しており、通り一遍ではない難易度の高い演習を予定していますので、生半可な気持ちでの受講はお勧めしません。

授業の概要(1200字以内)

本講座では、以下のようなデータサイエンティストに求められるスキルを学びます。

1. コンピュータサイエンス:ビッグデータを収集、加工、分析するためのプラットフォームを構築する
2. データ分析:適した統計手法やモデリングによってデータを処理・分析する(データマイニング)
3. ビジネス:企業の戦略、課題、外部環境などを把握した上で的確な指標を選定しデータ分析結果を評価する

本講座はこれらについて、特に応用面については 2 のデータ分析、すなわちデータマイニング技術を中心に学びますが、1, 3 についても時間の許す限り取り上げます。基礎知識としてデータ分析のための最低限必要な数学(線形代数)を学び、データマイニングについては R 言語によるプログラミングを通じてデータを具体的に処理する演習を通じて実践力を養います。

◎なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては授業の進行形態を変更する可能性があるため、担当者からの連絡に注意するようにしてください。

授業計画(1450字以内)

- 第 1 回 ガイダンス(AI データサイエンスについて)
- 第 2 回 導入(専門用語はなぜ覚えなないといけないのか)
- 第 3 回 総論(AI データサイエンスとは)
- 第 4 回 R プログラミング入門(1: プログラミングの基礎)
- 第 5 回 R プログラミング 入門(2: データ表現と構造)
- 第 6 回 R プログラミング 入門(3: アルゴリズムの基礎)
- 第 7 回 データサイエンスのための線形代数(1)
- 第 8 回 データサイエンスのための線形代数(2)
- 第 9 回 データサイエンスのための線形代数(3)
- 第 10 回 データサイエンスのための線形代数(4)
- 第 11 回 データサイエンスの基礎知識(基本統計量)
- 第 12 回 データサイエンスの基礎知識(検定)
- 第 13 回 回帰分析
- 第 14 回 多次元尺度法
- 第 15 回 まとめ・実力テスト

授業外学習(予習・復習)(2200字以内)

課題演習については特に復習を丁寧にする事で実際に使える技術が身につくので、普段の努力をかかさないようにしてください。

授業の方法と学習上の留意点(450 字以内)

各回、解説のあと課題演習により実践力を養うことを繰り返します。また、授業は積み上げ方式であるため、欠席をすると連続性が取れなくなりま
す。不慮の事故等により欠席した場合は、かならず復習して授業の進度に追いついてください。

成績評価基準(450 字以内)

演習課題、実力テストおよび平常点の総合評価です。

教科書(450 字以内)

なし

参考文献(700 字以内)

追って指示します。

関連して受講することが望ましい科目(450 字以内)

授業科目名	クラス	単位数	担当教員名
AI・データサイエンス基礎2（別）◆先端技術論		2	前田 利之
授業の到達目標及びテーマ(850字以内)			
<p>今日のインターネット社会における最先端技術とは、インターネットに刻々と蓄積されていくビッグデータを分析し活用する技術、すなわち AI 技術とデータサイエンスです。本講座では、AI・データサイエンス基礎1とあわせて、ビッグデータ時代をうまく乗りこなすための AI・データサイエンスの諸技術について、特にデータマイニング技術を中心に多くの演習を通じて実践力を習得することを目指します。本当にスキルを得たい受講者を想定しており、通り一遍ではない難易度の高い演習を予定していますので、生半可な気持ちでの受講はお勧めしません。</p>			
授業の概要(1200字以内)			
<p>本講座では、AI・データサイエンス基礎1の内容を理解していることを前提にして、以下のようなデータサイエンティストに求められるさらに高度なスキルを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータサイエンス:ビッグデータを収集、加工、分析するためのプラットフォームを構築する 2. データ分析:適した統計手法やモデリングによってデータを処理・分析する(データマイニング) 3. ビジネス:企業の戦略、課題、外部環境などを把握した上で的確な指標を選定しデータ分析結果を評価する <p>本講座はこれらについて、特に応用面については 2 のデータ分析、すなわちデータマイニング技術を中心に学びますが、1, 3 についても時間の許す限り取り上げます。基礎知識としてデータ分析のための最低限必要な数学(微分)を学び、データマイニングについては R 言語によるプログラミングを通じてデータを具体的に処理する演習を通じて実践力を養います。</p> <p>◎なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては授業の進行形態を変更する可能性があるため、担当者からの連絡に注意するようにしてください。</p>			
授業計画(1450字以内)			
<p>第1回 人工知能の歴史(後期の導入)</p> <p>第2回 データサイエンスのための微分入門(1)</p> <p>第3回 データサイエンスのための微分入門(2)</p> <p>第4回 主成分分析</p> <p>第5回 クラスタ分析</p> <p>第6回 アソシエーション分析</p> <p>第7回 決定木</p> <p>第8回 テキストマイニング(1)</p> <p>第9回 テキストマイニング(2)</p> <p>第10回 テキストマイニング(3)</p> <p>第11回 ニューラルネットワーク(1)</p> <p>第12回 ニューラルネットワーク(2)</p> <p>第13回 データエンジニアリング(1: システムの分析と設計)</p> <p>第14回 データエンジニアリング(2: システムの構築と運用)</p> <p>第15回 まとめ・実力テスト</p>			
授業外学習(予習・復習)(2200字以内)			

課題演習については特に復習を丁寧にすることで実際に使える技術が身につくので、普段の努力をかかさないようにしてください。

授業の方法と学習上の留意点(450字以内)

本講座は AI・データサイエンス基礎1の内容を理解していることを前提にしています。

各回、解説のあと課題演習により実践力を養うことを繰り返します。また、授業は積み上げ方式であるため、欠席をすると連続性が取れなくなりま
す。不慮の事故等により欠席した場合は、かならず復習して授業の進度に追いついてください。

成績評価基準(450字以内)

演習課題、実力テストおよび平常点の総合評価です。

教科書(450字以内)

なし

参考文献(700字以内)

追って指示します。

関連して受講することが望ましい科目(450字以内)

AI・データサイエンス基礎1

D 一般教育科目

履修要領

CONTENTS

1. 一般教育科目とは …………… D-1
2. カリキュラムの特色 …………… D-1
3. 群のテーマと科目構成 …………… D-2
4. 卒業必要単位数
 - (1) 「情報とメディア」群…………… D-3
 - (2) 「言語と文化」群(経済学部・流通学部・
経営情報学部の学生) …………… D-4
 - (3) 「人間と文化」群 …………… D-6
 - (4) 「歴史と社会」群 …………… D-6
 - (5) 「自然と環境」群 …………… D-6
 - (6) 「健康とスポーツ」群…………… D-6
 - (7) 基盤教育科目 …………… D-6
 - (8) 自由選択科目 …………… D-6
 - (9) 卒業必要単位数 …………… D-6
 - (10) 科目配当表 …………… D-7
 - (11) 科目担当者表 …………… D-12
5. その他
 - (1) 外国語科目の難易度について…………… D-19
 - (2) スポーツ技術／スポーツ・トレーニング
の履修について …………… D-19
 - (3) 履修における制約条件の追加…………… D-21
 - (4) 科目履修の全体計画…………… D-21
6. カリキュラムマップ(履修系統図)…………… D-22

1. 一般教育科目とは

一般教育科目とは、専門科目の枠を超えて、幅広い知識・教養・技法を身につけることを目的にした科目である。一般教育科目は、大学の学問への入門として、専門科目を学ぶための基礎をつくり、また専門科目と並行して学ぶことによって、広い視野から総合的に判断する力を養うものである。その点で、一般教育科目は本学の教育理念にある「総合的な分析・判断能力」の養成や、「人間性豊かな人材」の育成にとって不可欠なものである。そして一般教育科目を学ぶ中で、自分の生き方や将来の職業を考え、キャリア科目の履修とあわせて、就職活動の準備もできるであろう。

一般教育科目の中には、英語や文学、歴史や地理、数学や物理や生物など、高校までに学んだ科目も含まれている。しかし大学の一般教育科目は高校までの学習とは大きく異なる。一般教育科目では、各分野の専門の教員が最新の研究成果に基づきながら、大学生に知ってほしい内容を選んで、基本的な内容から最先端の研究のトピックスまで、分かりやすく講義する。各科目を学ぶことによって、これまでの常識がくつがえったり、新たな視点から考えたり、もっと専門的に学びたいことも発見するであろう。そのような大学時代の経験が、社会人になっても生涯にわたって学び続ける意欲と習慣を培うことであろう。

大学の学習では、意欲や関心をもち、自分の頭で考え、積極的に発表したり、討論に参加して主体的に学ぶことが重要である。一般教育科目の学習は、そのような大学での学び方を身につける第一歩となる。

2. カリキュラムの特色

本学の一般教育科目は、「情報とメディア」「言語と文化」「人間と文化」「歴史と社会」「自然と環境」「健康とスポーツ」という6つの群と「基盤教育科目」「自由選択科目」からなり、それぞれに多様な科目を配置している。

「情報とメディア」群は情報化時代に必要な知識と技能を身につける科目である。「言語と文化」群はグローバル化の時代に必要な外国語を身につけ、異文化理解に必要な科目である。「人間と文化」「歴史と社会」「自然と環境」の各群は、人文科学・社会科学・自然科学から現代的な教養として必要な知識を習得する科目である。「健康とスポーツ」群は身体の健康を増進し、スポーツに親しむ知識と実践のための科目である。「基盤教育科目」にはスタディスキルズ、「自由選択科目」には教養演習などが含まれる（各群の説明は、次ページの3.の項目を参照）。

一般教育科目から、卒業要件として30単位以上を修得しなければならない。6つの群から学部ごとに定められた最低必要単位を修得するとともに、6つの群と「基盤教育科目」「自由選択科目」を含めて、卒業単位を満たすように選択することが必要である。その際、各群にわたって幅広く選択することも可能であり、逆に特定の分野から集中的に多くの科目を選択することも可能である。一般教育科目からどの科目を選択するかについては、学生の自主性が尊重される。そして興味や関心をもって意欲的に学ぶことが期待される。

3. 群のテーマと科目構成

「情報とメディア」群

全学生が「情報処理入門」を履修し、コンピュータの基本的な使い方や情報処理能力を養成する。また、コンピュータのハード・ソフトの知識を身につけ、知的所有権や情報化社会についても学ぶ。

「言語と文化」群

外国語の学習を通して生きたコミュニケーション能力を身につける。また、コミュニケーション技術の修得に加え、日本語と外国語の違いを学ぶことにより、外国の人々の考え方や文化の違いについても理解を深める。

「人間と文化」群

人間とは何か、人間の築いた文化とは何かといった課題に対し、哲学、心理学などの各専門分野から、それぞれ独自のアプローチを行う。

「歴史と社会」群

社会とは何であり、どのように発展してきたのかについて日本史、西洋史、東洋史を学ぶ。また、現代の社会について、法、政治、経済の各専門分野からそれぞれ独自のアプローチを行う。

「自然と環境」群

自然の本質、生命とは何か、科学と人間社会との関わり、環境問題などを学ぶ。理科系科目が苦手な学生でも理解しやすいように工夫されている。また、専門科目でも利用される統計や数学についても学ぶ。

「健康とスポーツ」群

健全な心身を維持するためにスポーツがいかに貢献しえるかを科学的にかつ実践的に理解する。また、これからのライフスタイルを設計していく上で欠かせない生涯教育（生涯スポーツ）の分野についても十分な理解を深める。

基盤教育科目

学生生活を充実させるために、学びの土台を構築する。主に「レポート・論文などの文章技法」「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表技法」「論理的思考や表現」について理解を深める。

自由選択科目

短期留学、ボランティア実践、教養総合講座、教養演習、諸課程関連科目が配置されている。

4. 卒業必要単位数

一般教育科目における卒業に必要な単位数は、合計30単位である。

卒業までに各科目群から、下記のとおり必要な単位を修得しなければならない。

<経済・流通・経営情報学部学生の場合>

「情報とメディア」群	(2単位)
「言語と文化」群	(8単位)
「人間と文化」群	(4単位)
「歴史と社会」群	(4単位)
「自然と環境」群	(4単位)
「健康とスポーツ」群	(4単位)

+

基盤教育科目と自由選択科目を含め、一般教育全体から(4単位以上)

合計30単位以上

<国際コミュニケーション・国際観光学部学生の場合>

「情報とメディア」群	(2単位)
「人間と文化」群	(8単位)
「歴史と社会」群	(8単位)
「自然と環境」群	(4単位)
「健康とスポーツ」群	(4単位)

+

「言語と文化」群、基盤教育科目および自由選択科目を含め、一般教育科目全体から(4単位以上)

合計30単位以上

(1) 「情報とメディア」群

「情報とメディア」群は、現代社会に欠くことの出来ないコンピュータに関する科目が配置されており、卒業までに必ず2単位以上修得しなければならない。

また、各学部の学生は、「情報処理入門」「情報処理応用」について下表のとおり履修し、単位を修得しなければならない。

学部 科目名	経済	流通	経営情報	国際コミュニケーション	国際観光
情報処理入門	全員履修	全員履修		全員履修	全員履修
情報処理応用	全員履修	全員履修		全員履修	全員履修

- ・経営情報学部生は「情報処理入門」を学科科目として履修するため、一般教育科目には設置されていない。さらに「情報処理応用」は一般教育科目、学科科目いずれにも設置されていない。

(2) 「言語と文化」群（経済学部・流通学部・経営情報学部の学生）

「言語と文化」群は、英語・中国語・ドイツ語・フランス語の主外国語と、韓国語・スペイン語の副外国語から構成されている。

経済学部、流通学部、経営情報学部の学生は入学後、上記の主外国語より必ず1ヵ国語を選び、卒業までに1と2を修得しなければならない。その上で、2年次に同言語系科目の3と4を修得するか、もしくは他の言語系科目（副外国語を含む）を修得してもよい。卒業までにそれらの組み合わせの中から4科目・8単位以上を修得しなければならない。

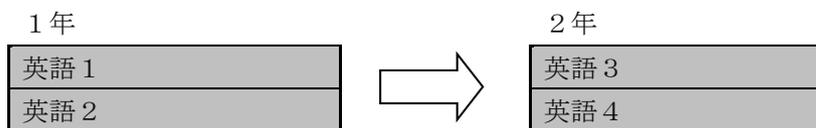
- ① 3・4を履修するには、1・2ともに修得済みであること。
- ② 他の外国語の言語系科目を履修するには、選択した言語の1・2ともに修得済みであること。
- ③ 入学時に選択した外国語は、原則変更することができない。

<例：新入生で「英語圏」を卒業要件に選んだ場合の履修モデル>

は卒業要件に含まれる科目

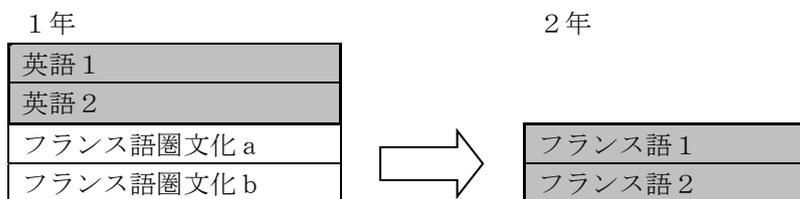
●基本モデル

新入生で登録した主外国語の言語系科目を2年次でも修得する。



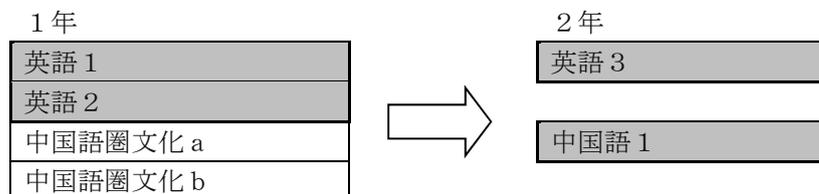
●二つの言語を選んだ場合のモデル その1

1年次に新入生で登録した主外国語の言語系科目と他言語の文化系科目を修得し、文化系科目で他言語に興味があれば、他言語の言語系科目を2年次で修得する。



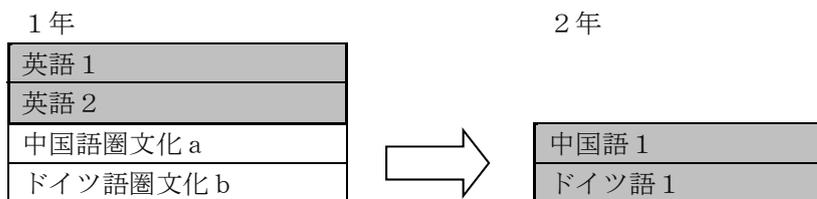
●二つの言語を選んだ場合のモデル その2

1年次に新入生で登録した主外国語の言語系科目と他言語の文化系科目を修得する。文化系科目で他言語に興味があれば、2年次に英語の上位科目と、他言語の言語系科目を修得する。



●三つの言語を選んだ場合のモデル

1年次に新入生で登録した主外国語の言語系科目と他言語の二つの文化系科目を修得し、文化系科目で他言語に興味があれば、他言語の言語系科目を2年次で修得する。



●文化系を選んだ場合のモデル

新入生で登録した主外国語の言語系科目と文化系科目を修得する。



経済学部・流通学部・経営情報学部等の日本語科目履修モデル

経済学部・流通学部・経営情報学部の外国人留学生および日本語を第一言語としない学生にとって、日本社会で生活し、日本文化を理解する上で不可欠な日本語の修得のため、積極的に科目を履修してほしい。

履修モデルは、4年間の計画的な履修によって、卒業後に、社会に通用する日本語運用能力を習得することを目指すものである。

入学時に日本語能力試験N1を取得していない学生は、まず入学後のプレースメントテストにより、N2レベルの語彙や文法を強化する「基礎^注日本語」科目、または、N1の取得を目指す「実力日本語」科目を履修することとなる。すでにN1を取得している学生は、本来大学で学ぶべき「大学日本語」科目を履修する。1年次のスタートラインはその能力によって異なるが、全員が日本語科目を履修し、2年次以降はその学びを継続して日本語運用能力をつけて行ってほしい。

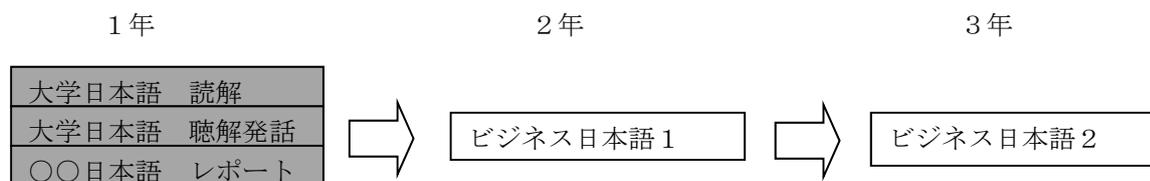
また、N1を取得した学生は、2年次以上で、敬語やビジネスマナーの基本を学ぶ「ビジネス日本語1」、3年次以上でBJTビジネス日本語能力テストのJ1以上を目指す「ビジネス日本語2」を履修することができる。このほか、「実力日本語」履修後にN1取得に失敗した学生が再挑戦する「総合日本語」やN1を取得していない学生が卒業前に就職に向けて簡単な敬語を学ぶ「実用日本語」も用意している。

詳しい履修法については、1年次の日本語科目の授業中に説明を行うので、詳細は科目担当者の指示に従うこと。

注…「基礎日本語」という名称を使用しているが、初級という意味ではなく、大学で学ぶための基礎的な日本語能力を養うという意味である。

● 基本モデル1

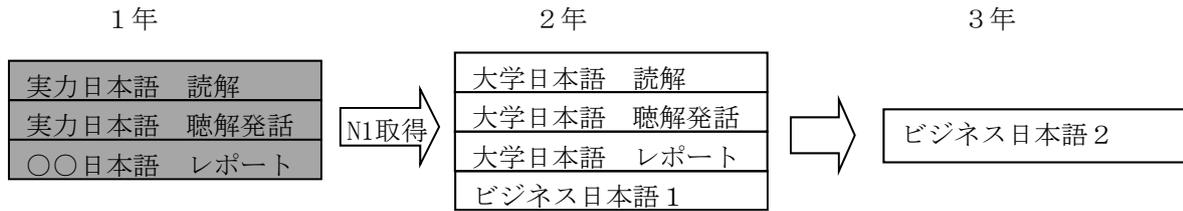
入学時に日本語能力試験「N1」を取得している場合。



※レポートは能力に応じ、「実力日本語レポート」または「大学日本語レポート」を履修する。

● 基本モデル 2

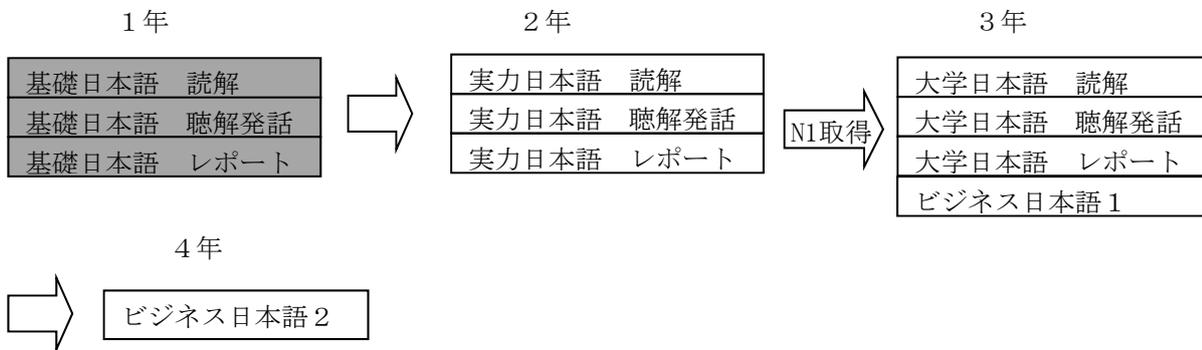
入学時に日本語能力試験「N1」を取得しておらず、1年次の間に取得する場合。



※レポートは能力に応じ、「基礎日本語レポート」または「実力日本語レポート」を履修する。

● 基本モデル 3

1年次に日本語能力試験「N2」レベルの能力を強化する場合。



(3) 「人間と文化」群

卒業までに配当科目から経済・流通・経営情報学部生の場合は必ず4単位以上、国際コミュニケーション・国際観光学部生の場合は、8単位以上修得しなければならない。

(4) 「歴史と社会」群

卒業までに配当科目から経済・流通・経営情報学部生の場合は必ず4単位以上、国際コミュニケーション・国際観光学部生の場合は、8単位以上修得しなければならない。

(5) 「自然と環境」群

卒業までに配当科目から4単位以上修得しなければならない。

(6) 「健康とスポーツ」群

卒業までに配当科目から経済・流通・経営情報・国際観光学部生の場合は必ず4単位以上修得しなければならない。国際コミュニケーション学部生の場合は、2単位以上修得しなければならない。

(7) 基盤教育科目

「スタディスキルズ1」、「スタディスキルズ2」は全員履修科目である。

再履修はできない。

(8) 自由選択科目

自由選択科目は一般教育科目に含まれるが、どの群にも属さない科目である。

(9) 卒業必要単位数

上記(1)～(6)の条件を満たし、(7)、(8)も含めた一般教育科目全体の中から、30単位以上を修得しなければならない。

(10) 科目配当表

①「情報とメディア」群

(般第6表-1)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数	
科 目 名	クラス	担当者	単位	期間	E B I G T	
情報処理入門(注1)		般第7表 -1		前期	2 単 位 以 上	
情報処理応用(注1)				後期		
情報科学a	A・B	加藤(諒)		前期		
情報科学b				後期		
情報化社会論(注2)		不開講		前期		
マスメディア論a	A・B	中嶋(晋)		前期		
マスメディア論b				後期		
マスメディア論a	C	坪井(兵)		前期		
マスメディア論b				後期		
コンピュータと法		山崎(道)		後期		
AI・データサイエンス入門1(注3)		未開講		前期		
AI・データサイエンス入門2(注3)				後期		

(注1) 経営情報学部生は、「情報処理入門」と「情報処理応用」を除いた科目から単位を修得すること。

(注2) 「情報化社会論」は、**国際コミュニケーション学部生**は、履修できない科目である。

(注3) AI・データサイエンス入門1/2は2021年度以降入学生のみ履修可能である。(※2年次配当の為、2021年度は未開講となる。)

②「言語と文化」群

(般第6表-2)

主 外 国 語	1 年 次 配 当				卒業に必要な単位数		任意修得(注4)		
	科 目 名	担当者	単位	期間	E B I	G	T		
	英語1	般第7表 -2-1		通年	「言語と文化」群から 8単位以上	E B I	×	×	
英語2	×						×		
英語圏文化a	般第7表 -2-2		前期	×			×		
英語圏文化b			後期	×			×		
フランス語1	般第7表 -3		前期	○			○		
フランス語2			後期	○			○		
フランス語圏文化a			前期	×			×		
フランス語圏文化b			後期	×			×		
ドイツ語1	般第7表 -4		通年	○			○		
ドイツ語2			○	○					
ドイツ語圏文化a			前期	×			×		
ドイツ語圏文化b			後期	×			×		
中国語1	般第7表 -5-1		通年	8 単 位 以 上	E B I	×	○		
中国語2			×			○			
中国語圏文化a	般第7表 -5-2		前期			×	×		
中国語圏文化b			後期			×	×		
日本語科目(注3)	般第7表 -6		通年			×	×		
2 年 次 配 当									
科 目 名	担当者	単位	期間						
英語3	般第7表 -2-2		2 通 年			8 単 位 以 上	E B I	×	×
英語4								×	×
フランス語3	般第7表 -3							○	○
フランス語4								○	○
ドイツ語3	般第7表 -4							○	○
ドイツ語4				○	○				
中国語3	般第7表 -5-2			×	×				
中国語4				×	○				
日本語科目(注3)	般第7表 -6			×	×				

「言語と文化」群に卒業要件は設けられないが、修得した単位は一般教育科目として集計される。

副 外 国 語	1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数 E B I	任意修得			
	科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間		G	T		
	スペイン語圏文化a		不開講	2	前期		×	「言語と文化」群から8単位以上 ※ただし主外国語の修得が必須 副外国語だけでは卒業要件は満たさ ない。	計され が、「言語と文化」群に卒業要件は設けない が、修得した単位は一般教育科目として集 計される。	×
スペイン語圏文化b		後期			×	×				
コリア語圏文化a		池（清）	2	前期	×	×	×			
コリア語圏文化b				後期	×	×				
2 年 次 配 当										
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間						
コリア語1		丁（恩）	2	前期	×	○	○			
コリア語2				後期	×	○				
スペイン語1		小川（雅）	2	前期	○	○	○			
スペイン語2				後期	○	○				

(注3) 「日本語科目」は、留学生のみ履修できる科目である。国際コミュニケーション学部生と国際観光学部生は学科科目として履修するため、一般教育科目では履修できない。

(注4) 国際コミュニケーション学部生と国際観光学部生の履修できる科目は○、履修できない科目は×で表記している。

③「人間と文化」群

(般第6表-3)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数	
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間	E B I	G T
哲学a		和田（渡）	2	前期	4 単 位 以 上	8 単 位 以 上
哲学b				後期		
倫理学a（注1）	A	森（芳）	2	前期		
倫理学b（注1）				後期		
倫理学a（注1）	B	山口（弘）	2	前期		
倫理学b（注1）				後期		
論理学a（注2）	A	森（芳）	2	前期		
論理学b（注2）				後期		
論理学a（注2）	B	山口（弘）	2	前期		
論理学b（注2）				後期		
心理学a	A・B	崎濱（秀）	2	前期		
心理学b				後期		
心理学a	C	不開講	2	前期		
心理学b				後期		
教育学a	A	祐岡（武）	2	前期		
教育学b				後期		
教育学a（注3）	B	秋山（弥）	2	前期		
教育学b（注3）				後期		
教育学a（注3）	C	高道（純）	2	前期		
教育学b（注3）				後期		
日本文学a		鷺崎（秀）	2	前期		
日本文学b				後期		
外国文学a	A	溝井（高）	2	前期		
外国文学b				後期		
外国文学a	B	若狭（智）	2	前期		
外国文学b				後期		
地理学a	A	川口（夏）	2	前期		
地理学b				後期		
地理学a	B	坂井（康）	2	前期		
地理学b				後期		
文化人類学a	A・B	橘（健）	2	前期		
文化人類学b				後期		
観光文化論（注4）	A・B	福本（賢）	2	前期		
観光文化論（注4）				後期		
現代日本事情a（注5）		中山（恵）	2	前期		
現代日本事情b（注5）				後期		

(注1) 「倫理学 a・b」 Aクラスは、経済・経営情報学部のみ履修できる科目である。

「倫理学 a・b」 Bクラスは、流通・国際コミュニケーション・国際観光学部のみ履修できる科目である。

(注2) 「論理学 a・b」 Aクラスは、経済・経営情報学部のみ履修できる科目である。

「論理学 a・b」 Bクラスは、流通・国際コミュニケーション・国際観光学部のみ履修できる科目である。

(注3) 「教育学 a・b」 Bクラスは、1・3年次生のみ履修できる科目である。

「教育学 a・b」 Cクラスは、2年次生以上のみ履修できる科目である。

(注4) 国際観光学部生は、「観光文化論」を履修できない。

(注5) 「現代日本事情 a・b」は留学生のみ履修できる科目である。

④「歴史と社会」群

(般第6表-4)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数	
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間	E B I	G T
日本史a	A・C	江(介)	2	前期	4 単位 以上	8 単位 以上
日本史b				後期		
日本史a	B	来村(多)		前期		
日本史b				後期		
東洋史a	A～C	大澤(直)		前期		
東洋史b				後期		
西洋史a	A	吉門(昌)		前期		
西洋史b				後期		
西洋史a	B・C	庄子(大)		前期		
西洋史b				後期		
現代史a	A・B	西田(彰)		前期		
現代史b				後期		
法学a(注1)		池田(雄)		前期		
法学b(注1)				後期		
政治学a	A	井上(裕)		前期		
政治学b				後期		
政治学a	B	久門(宏)		前期		
政治学b				後期		
社会学a		村田(充)		前期		
社会学b				後期		
経済学a	A・B	西(淳)	前期			
経済学b			後期			
経営学a(注2)	A・B	畑中(艶)	前期			
経営学b(注2)			後期			
日本国憲法		岡根(好)	前期			
人権問題論a		森本(芳)	前期			
人権問題論b			後期			

(注1) 「法学a・b」は、国際観光学部2019年度以降入学生は、履修できない科目である。

(注2) 「経営学a・b」は、経営情報学部は、履修できない科目である。

⑤「自然と環境」群

(般第6表-5)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数
科 目 名	クラス	担当者	単位	期間	E B I G T
数学a	A・B	松田 (健)	2	前期	4 単 位 以 上
数学b				後期	
統計学a		新熊 (邦)		前期	
統計学b				後期	
物理学a		濱 (道)		前期	
物理学b				後期	
化学a	A～C	山野 (秀)		前期	
化学b				後期	
生命科学a	A～C	鶴嶋 (鉄)		前期	
生命科学b				後期	
自然科学史a		濱 (道)		前期	
自然科学史b				後期	
地球環境科学a	A・B	金 (幸)		前期	
地球環境科学b				後期	

⑥「健康とスポーツ」群

(般第6表-6)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数
科 目 名	クラス	担当者	単位	期間	E B I G T
人間科学a (注1)	A・B	濱田 (信)	2	前期	4 単 位 以 上
人間科学b (注1)				後期	
健康科学論a		光安 (知)		前期	
健康科学論b				後期	
生涯スポーツ論a (注2)	A・B	江原 (謙)		前期	
生涯スポーツ論b (注2)				後期	
生涯スポーツ論a (注2)	C・D	黒住 (啓)		前期	
生涯スポーツ論b (注2)				後期	
スポーツ科学論a	A	須佐 (徹)		前期	
スポーツ科学論b				後期	
スポーツ科学論a	B	加藤 (弘)		前期	
スポーツ科学論b				後期	
スポーツ文化論a		山内 (章)		前期	
スポーツ文化論b				後期	
スポーツ技術a	A～L	般第7表-7		前期	
スポーツ技術b				後期	
スポーツ・トレーニングa	A～H	般第7表-8		前期	
スポーツ・トレーニングb				後期	

(注1) 「人間科学 a・b」 Aクラスは、1年次生・3年次生以上が履修できる科目である。

「人間科学 a・b」 Bクラスは、2年次生以上のみ履修できる科目である。

(注2) 「生涯スポーツ論 a・b」 Aクラス・Bクラスは、1・2年次生のみ履修できる科目である。

「生涯スポーツ論 a・b」 Cクラス・Dクラスは、3年次生以上のみ履修できる科目である。

⑦基盤教育科目

(般第6表-7)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間	E B I G T
スタディスキルズ1		般第7表-9	2	前期	一般教育科目の「基盤教育科目」に参入される。
スタディスキルズ2				後期	

⑧自由選択科目

(般第6表-8)

1 年 次 配 当					卒業に必要な単位数
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間	E B I G T
ボランティア実践		山口 (真)	4	通年 集中	一般教育科目の「自由選択科目」に参入される。
教養総合講座a (注1)	A	坪井 (兵)	2	前期	
教養総合講座b (注1)		森 (芳)		後期	
教養総合講座a	B	澤崎 (聡)		前期	
教養総合講座b		山口 (哲)		後期	
教養演習1a (注2)	A~C	般第7表-10		前期	
教養演習1b	A・B			後期	
教養演習2a	A・B			前期	
教養演習2b	A~D			後期	
教職入門		秋山 (弥)		後期	
博物館概論 (注3)		和泉 (大)		前期	
短期留学1		不開講	4	通年	
短期留学2		不開講			
短期留学3		不開講			
短期留学4		不開講			
2 年 次 配 当					
科 目 名	ｸﾗｽ	担当者	単位	期間	
教育社会学		森本 (芳)	2	前期	
生涯学習概論		竹田 (芳)	2	後期	

(注1) 「教養総合講座a・b」のAクラスは、3・4年次配当のクラスとするため、

1年次生・2年次生は履修できない。

(注2) 「教養演習1a」のCクラスは、3・4年次配当のクラスとするため、

1年次生・2年次生は履修できない。

(注3) 国際観光学部生は、「博物館概論」を履修できない。

(11)科目担当者表

①「情報とメディア」群「情報処理入門」・「情報処理応用」担当者表

(般第7表-1)

科 目 名	クラス	担当者	配当学科	配当学年
情報処理入門	2 A	高橋 真紀	E	1
	2 B	川本 哲也		
	2 C	山田 明美		
	2 D	野山 知子		
	2 E	高橋 真紀		
	2 F	川本 哲也		
	2 G	山田 明美		
	2 H	野山 知子		
	4 A	高橋 真紀	B	1
	4 B	藤居 大樹		
	4 C	山田 明美		
	4 D	中野 敦志		
	4 E	伏尾 有加		
	4 F	木山 恒彦		
	6 A	河南 昭子	G	1
	6 B	川本 哲也		
6 C	前川 京子			
6 D	山田 明美			
7 A	河南 昭子	T	1	
7 B	川本 哲也			
7 C	前川 京子			
7 D	山田 明美			
情報処理応用	2 A	高橋 真紀	E	1
	2 B	川本 哲也		
	2 C	山田 明美		
	2 D	野山 知子		
	2 E	高橋 真紀		
	2 F	川本 哲也		
	2 G	山田 明美		
	2 H	野山 知子		
	4 A	高橋 真紀	B	1
	4 B	藤居 大樹		
	4 C	山田 明美		
	4 D	中野 敦志		
	4 E	伏尾 有加		
	4 F	川端 緑		
	6 A	河南 昭子	G	1
	6 B	川本 哲也		
6 C	前川 京子			
6 D	山田 明美			
6 E	藤居 大樹			
7 A	河南 昭子	T	1	
7 B	川本 哲也			
7 C	前川 京子			
7 D	山田 明美			
				1 2 3 4
				1 2 3 4

② 「言語と文化」群「英語」担当者表

(般第7表-2-1)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次	科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
英語 1	2 A	白石 (治)	E	1	英語 2	2 A	Smith	E	1
	2 B	鈴木 (喜)				2 B	Wier		
	2 C	吉岡 (み)				2 C	Sanderson		
	2 D	浅野 (み)				2 D	Thornton		
	2 E	湊 (由)				2 E	Kanaras		
	2 F	鈴木 (喜)				2 F	Smith		
	2 G	湊 (由)				2 G	Wier		
	2 H	白石 (治)				2 H	Sanderson		
	2 I	浅野 (み)				2 I	Thornton		
	2 J	吉岡 (み)				2 J	Kanaras		
	4 A	山崎 (祐)	B			4 A	Parsons	B	
	4 B	岡川 (知)				4 B	Shiroshita		
	4 C	井上 (文)				4 C	Authier		
	4 D	高島 (園)				4 D	Peet		
	4 E	山崎 (祐)				4 E	Parsons		
	4 F	池名 (友)				4 F	Shiroshita		
	4 G	阪口 (さ)				4 G	Authier		
	4 H	小川 (佳)				4 H	Peet		
	5 A	ウィルソン (陽)	I			5 A	Wilson	I	
	5 B	遠田 (陽)				5 B	Thonton		
5 C	下平 (雪)	5 C		Larson					
5 D	武田 (雅)	5 D		Fenstermaker					
5 E	ウィルソン (陽)	5 E		Wilson					
5 F	遠田 (陽)	5 F		Thonton					
5 G	下平 (雪)	5 G		Larson					
5 H	武田 (雅)	5 H		Fenstermaker					
科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次	科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
英語 1	9 A	城野 (豊)	E B I	234	英語 2	9 A	Larson	E B I	234
	9 B	武田 (雅)				9 B	Van Ham		
	9 C	遠田 (陽)				9 C	Van Ham		
	9 D	小川 (佳)				9 D	Van Ham		
	9 E	白石 (治)				9 E	Sanderson		

(般第7表-2-2)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
英語3		大江(麻)	E B I	2 3 4
英語4		Van Ham	E B I	2 3 4
英語圏文化a	A	湊(由)	B I	1 2 3 4
	B	鈴木(喜)		
	C	大江(麻)		
	D	鈴木(喜)		
	E	白石(治)	E	
	F・G	阪口(さ)		
	H	白石(治)		
英語圏文化b	A	湊(由)	B I	1 2 3 4
	B	鈴木(喜)		
	C	大江(麻)		
	D	鈴木(喜)		
	E	白石(治)	E	
	F・G	阪口(さ)		
	H	白石(治)		

③「言語と文化」群「フランス語」担当者

(般第7表-3)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次	
フランス語1	A・B	仲井(秀)	E B I G T	1 2 3 4	
	C	鄭(久)			
	D	真田(桂)			
フランス語2	A・B	仲井(秀)			
	C	鄭(久)			
	D	真田(桂)			
フランス語3		真田(桂)			2 3 4
フランス語4		不開講			
フランス語圏文化a		真田(桂)		E B I	1 2 3 4
フランス語圏文化b		真田(桂)			

(注) フランス語科目については以下の通り開講される。

- ・フランス語1—前期週2回開講。
- ・フランス語2—後期週2回開講。

④「言語と文化」群「ドイツ語」担当者表

(般第7表-4)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
ドイツ語1	A・B	三宅(博)	E B I G T	1 2 3 4
	C・D	假谷(祥)		
ドイツ語2	A・B	奥田(紀)		
	C・D	中村(睦)		
ドイツ語3(注)		假谷(祥)		2 3 4
ドイツ語4(注)		不開講		
ドイツ語圏文化a		溝井(高)	E B I	1 2 3 4
ドイツ語圏文化b				

(注) 隔年開講科目

⑤「言語と文化」群「中国語」担当者表

(般第7表-5-1)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
中国語1	A	蔡(明)	E	1
	B	穴澤(彰)		
	C	金(路)		
	D	穴澤(彰)		
	E	宋(健)	B I	
	F	金(路)		
	G	宋(健)		
	H	金(路)		
	9A	蔡(明)	E B I T (注)	2 3 4
	9B	松田(郁)		
中国語2	A	荊(秉)	E	1
	B	北島(利)		
	C	北島(利)		
	D	荊(秉)		
	E	松田(郁)	B I	
	F	張(応)		
	G	松田(郁)		
	H	張(応)		
	9A	傍島(史)	E B I T (注)	2 3 4
	9B	北島(利)		

(注) 国際観光学部のみ1年次配当

(般第7表-5-2)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
中国語3 (注)		宋 (健)	E B I T	2 3 4
中国語4 (注)		不開講	E B I T	2 3 4
中国語圏文化a	A	室山 (留)	E B I	1 2 3 4
	B		E B I	
中国語圏文化b	A	室山 (留)	E B I	
	B		E B I	

(注) 隔年開講科目

⑥「言語と文化」群「日本語」担当者表

(般第7表-6)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当年次
基礎日本語読解		鈴木 (庸)	E B I	1 2 3 4
基礎日本語聴解発話		山本 (さ)		
基礎日本語レポート		中山 (恵)		
実力日本語読解		山本 (さ)		
実力日本語聴解発話		中山 (恵)		
実力日本語レポート		山本 (さ)		
大学日本語読解		中山 (恵)		
大学日本語聴解発話		鈴木 (庸)		2 3 4
大学日本語レポート		山本 (さ)		
総合日本語		山本 (さ)		
実用日本語		鈴木 (庸)		
ビジネス日本語1		中山 (恵)		
ビジネス日本語2		中山 (恵)		3 4

⑦「健康とスポーツ」群「スポーツ技術 a・b」担当者表

(般第7表-7)

	種 目 名	全 学 部 共 通	
		クラス	担当者
スポーツ技術 a	サッカー	D	朴 (成)
	バスケットボール	B・G	黒田 (雄)
		A	漆原 (誠)
	バドミントン	E	牧野 (晃)
		H・J	白石 (晃)
	バレーボール	C	木谷 (織)
		I	黒住 (啓)
卓球	F	光安 (知)	
BCエクササイズ	K	矢田 (竜)	
	L	宮田 (彰)	
スポーツ技術 b	サッカー	D	朴 (成)
	バスケットボール	B・G	黒田 (雄)
		A	漆原 (誠)
	バドミントン	E	牧野 (晃)
		J	小笠原 (佑)
	バレーボール	C	木谷 (織)
		H	不開講
I		黒住 (啓)	
卓球	F	光安 (知)	
BCエクササイズ	K	矢田 (竜)	
	L	宮田 (彰)	

⑧「健康とスポーツ」群「スポーツ・トレーニング a・b」担当者表

(般第7表-8)

	種 目 名	全 学 部 共 通	
		クラス	担当者
スポーツ・トレーニング a	ウエイト	B	北條 (貴)
	ダンス	G	光安 (知)
	トランポリン	E・F	中野 (孝)
	フットサル	A	朴 (成)
		D・H	北條 (貴)
	ゴルフ	C	本田 (明)
スポーツ・トレーニング b	ウエイト	B	北條 (貴)
	ダンス	G	光安 (知)
	トランポリン	E・F	中野 (孝)
	フットサル	A	朴 (成)
		D・H	北條 (貴)
	ゴルフ	C	本田 (明)

⑨基盤教育科目「スタディスキルズ1・2」担当者表

(般第7表-9)

科目名	クラス	担当者	配当学科	配当学年
スタディスキルズ1・2	2A	原 博子	E	1
	2B	佐々木 かな子		
	2C	酒井 美奈子		
	2D	柳 あず美		
	2E	種子 康子		
	2F	松本 麻友		
	2G	豊福 千穂		
	2H	岩村 洋子		
	4A	豊福 千穂	B	
	4B	佐々木 かな子		
	4C	酒井 美奈子		
	4D	柳 あず美		
	4E	種子 康子		
	4F	松本 麻友		
	4G	岩村 洋子		
	5A	豊福 千穂	I	
	5B	柳 あず美		
	5C	佐々木 かな子		
	5D	原 博子		
	5E	松本 麻友		
	5F	岩村 洋子		
	6A	豊福 千穂	G	
	6B	伊賀 吉郎		
	6C	松村 純子		
6D	種子 康子			
7A	豊福 千穂	T		
7B	伊賀 吉郎			
7C	松村 純子			
7D	種子 康子			

⑩自由選択科目「教養演習1a・1b・2a・2b」担当者表

(般第7表-10)

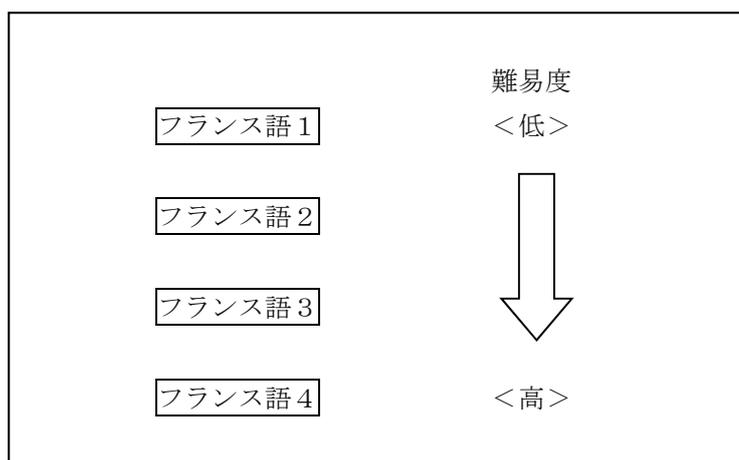
科目名	クラス	担当者	備考
教養演習1a	A	真田 (桂)	フランス語圏の文化と芸術1
	B	松村 (幸)	法律学への誘い1
	C	田上 (博)	学長塾～社会人としての教養実践
教養演習1b	A	真田 (桂)	社会人としての教養実践2
	B	松村 (幸)	法律学への誘い2
教養演習2a	A	松村 (幸)	社会の変化と法1
	B・C	前田 (利)	AIデータサイエンス総論
教養演習2b	A	松村 (幸)	社会の変化と法2
	B	中尾 (文)	AIデータサイエンス実習入門
	C	甲斐 (隆)	
	D	酒井 (麻)	

5. その他

(1) 外国語科目の難易度について

フランス語科目は科目毎に難易度がつけられ、初習外国語の学習をより充実させている。

1年次からフランス語を履修している学生はもちろん、2年次より新しい外国語を履修しようという学生は授業計画（シラバス）を確認の上、積極的に履修することをすすめる。



(2) スポーツ技術／スポーツ・トレーニングの履修について

人間は身体的な存在である。このことが忘れ去られようとしているが、決してその機能を「リストラ」することはできない。と言っても、スポーツは諸機能の維持や健康を獲得するためだけにあるのではない。とりわけ近代スポーツは、発生的には健康とは別次元のものである。しかし、スポーツは社会的に存在しているので、社会の要求とともに変化している。その要求は以下の三つの点で集約できる。

一点目は健康問題である。私たちの住む環境は大きく変化し、人工的・無機的な環境の拡大を押しとどめることができないでいる。それとともに人間的な相互関係や生き甲斐の喪失、そして、人間の身体的在り方に病気という現象を通じて否定的な影響が多く生じている。地域のコミュニケーションを組み込みつつ生き甲斐としての、人間の発育発達の生涯スポーツないし健康スポーツとしての役割を担うものとしての要求である。二点目は、スポーツ自体が社会とともにその姿を変えてきているということである。ルール変更や科学技術の応用としてのスポーツ技術を進展させ、ひいてはその国のスポーツ文化の在り方まで変化の一撃を加えている。このことはスポーツに歴史的・社会認識を要求している。三点目は、環境問題やフーリガン問題、薬物問題等に見られるように、スポーツに付随して多くの社会的な問題が生じているということである。スポーツと関係する人間的な在り方を正しく理解する必要がある。この三つの点がスポーツ実践のための大切な基礎であり、理論を含めたスポーツ授業全体の核を形成していると言える。これが基本的な考え方であり、理解すべきことである。もちろん授業は楽しいものでなければならないし、そのことに応じて各担当教員はさまざまな角度からの個性的なアプローチがなされることと思われる。

半期2単位の選択科目「スポーツ技術 a」「スポーツ技術 b」と「スポーツ・トレーニング a」「スポーツ・トレーニング b」はスポーツ実践を重視しているが、経験的な運動様式に終始するのではな

く、あくまで理論に基づいたスポーツ行為の形成である。従って、講義の授業も含まれ、レポート提出や定期試験の実施も課される場合がある。この点に留意すること。

上記の点をふまえて、さらに以下のように科目の特徴を示しておく。

①「**スポーツ技術 a**」「**スポーツ技術 b**」は、スポーツの主体である人間の身体運動の法則的理解をはじめとして、対象とするスポーツ種目の歴史とその動きの特殊性を楽しく学ぶことが中心である。そして、競技を構成しているルール・技術体系の構造分析と、それに基づいた医科学的なトレーニング論および戦術論等を学ぶことを目標にしている。

- 「**スポーツ技術 a**」は基礎編であり、身体運動や当該スポーツ種目の基本的な医科学的知識、技術の獲得、ルールの成立過程に重点が置かれている。
- 「**スポーツ技術 b**」は発展編であり、ルールに示されている競技性の理解に基づいて、全体的な戦略・戦術論やトレーニング論およびその社会的動向分析がなされる。スポーツの総合的認識の獲得と実践力の形成を目的としている。

種目	バスケットボール・バドミントン・バレーボール・卓球・サッカー・BCエクササイズ
----	---

②「**スポーツ・トレーニング a**」「**スポーツ・トレーニング b**」は、ここで挙げられているスポーツ種目を見れば分かるように、他には見られない個性を色濃くしている。その個性の実践を通じて楽しみ理解することが第一にある。このことに加えて、運動要素として周知の「スピード」「持久力」「パワー」が挙げられるが、ここで取りあげられているスポーツ種目には、この運動要素の種目的偏りがある。最近、指摘されだしていることとして、競技力の向上のために「動作の自由度」を獲得することが重要である、ということである。つまり運動要素を特化させたスポーツ、また競技性が要求する能力、例えば空間認識や精神的要素を強くしたスポーツは、その特徴・個性が他のスポーツ種目の合目的なトレーニング方法の発展的な在り方にとって秀でた役割をもっているということである。従って、ここでのスポーツ種目をそれ自体として楽しむことに専念するか、それとも他のスポーツ種目を目的として、動作の自由度を高める技術的高度化に向けたトレーニングの一方法として捉えるか、それは履修者の捉え方・選択の自由である。

- 「**スポーツ・トレーニング a**」は当該スポーツ種目の歴史やルールに対する理解、動作学習を通じて基礎的技術への理解とその汎用性を学習することであり、同時に動作の特徴を楽しく学習することである。
- 「**スポーツ・トレーニング b**」ではその種目に対する専門性・競技性を高めることであり、他方、このことが他のスポーツ種目に転移可能な能力となる。

種目	ウェイト・ゴルフ・トランポリン・フットサル・ダンス
----	---------------------------

(3) 履修における制約条件の追加

外国語科目や体育実技科目、および共通演習は少人数の授業であり、各クラスには人数制限が設けられている。そのため、諸君の希望をみたせない場合がある。

さらに、時間割の関係から履修を希望する一般教育科目が学科科目の必修科目と、あるいは、一般教育科目における希望科目どうしが同一時間に開講されている場合がある。前者のケースはもちろん必修科目を優先し、後者のケースはどちらかを諦めなければならない。

(4) 科目履修の全体計画

各学部における必修科目等、卒業要件を満たすにあたり、修得しなければならない科目はもちろんのこと、社会で通用する教養を身につけることが望ましい。その為には、年度始めに行われる履修登録において、しっかりと履修計画を立て、もれることなく履修しなければならない。

6. カリキュラムマップ（履修系統図）

一般教育科目では学生の自主的な学習と各自の興味や関心に沿った履修を可能とするために、数多くのメニュー（科目）を用意しています。したがって、学生諸君は自己の興味や意欲に基づいて科目選択が可能ですが、入学直後にそれを判断することの困難さを勘案し、カリキュラムマップを示しています。これらを参考にしながら、ガイダンスでの指導も併せて自主的、主体的に科目選択を行ってください。

<ナンバリング付与ルール>

開講される授業科目に、授業内容・レベル等に応じて特定のナンバーを付与し、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。学生諸君においてもナンバリングを含むカリキュラムマップを用い、体系的な学修計画を立ててください。学部コード、科目区分コード、レベルコード、管理コードから形成されています。それぞれのコードの意味は次のとおりです。

1ケタ目：一般教育科目コード（一般教育科目はLで統一）

2ケタ目：履修要綱の一般教育科目科目配当表（般第6表－1～8）の科目区分の上からの並びに準じて科目区分を表すアルファベットを順番に割り当てる。（例）「情報とメディア」群、「言語と文化」群・・・。

3ケタ目：レベルコード1。最初に受講できる配当年次を表します。

（例）配当年次1ならば1,配当年次234ならば,2となります。

下2ケタ：管理番号。学科科目一覧表に記された科目区分の、区分ごとに番号を割り当てている。

ナンバリング例：

情報処理入門・・・・・・LA101

英語3・・・・・・LB201

<ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）>

建学の精神である「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」に基づき、国際的なビジネスパーソンにふさわしい幅広い教養と専門知識を身につけ、高度の問題解決能力と社会的適応の力を備えた人物として成長を遂げた学生に学位を授与します。具体的には以下に示した能力を養成します。

【知識・理解】

- ①多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解している。
- ②それぞれの専門的学問分野における基本的な知識を体系的に理解している。
- ③幅広い教養と専門的知識を関連付けて理解している。

【汎用的技能】

④情報リテラシー

コンピュータの基本的な使い方や情報処理を行うことができる。またコンピュータを利用したプレゼンテーションを行うことができる。さらに情報コミュニケーション技術を用いて多様な情報を収集・分析・整理し、モラルに則って効果的に活用することができる。

⑤コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

⑥論理的思考力

情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

⑦問題解決力

グローバルかつローカルな視点から地域社会と協力して問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題の解決策を見いだすことができる。

【態度・志向性】

⑧多様性の理解と協調性

自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。また、旺盛なチャレンジ精神を持って、他者に方向性を示し、目標実現のために動員するとともに、状況に応じて主導者への自律的支援と組織への主体的貢献により、必要な役割を能動的に果たすことができる。

⑨倫理観と社会的責任

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

⑩自己管理能力

自らを律して行動できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

- ⑪これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、幅広い視野から物事を総合的に判断することができ、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

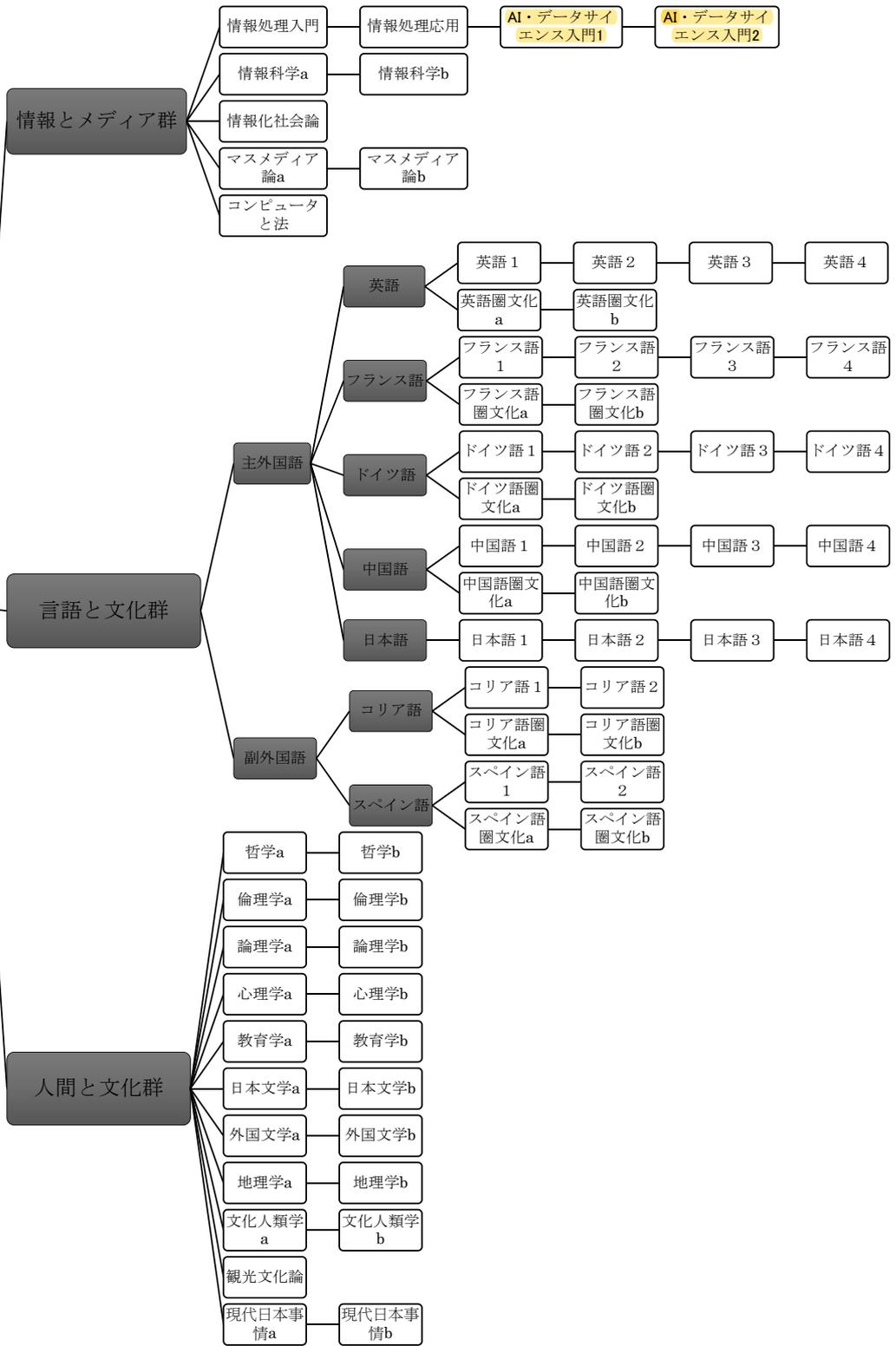
<一般教育科目カリキュラムマップ>

科目の種類	科目名	配当 年次	単 位 数	ナン バ リ ン グ	レ ベ ル	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪				
情報とメディア	情報処理入門	1	2	LA101	1			○	○											
	情報処理応用			LA102	2			○	○											
	情報科学 a	1, 2, 3, 4		LA103	1	○		○	○											
	情報科学 b			LA104	1	○		○	○											
	情報化社会論			LA105	1	○		○	○											
	マスメディア論 a			LA106	1	○		○	○											
	マスメディア論 b			LA107	1	○		○	○											
	コンピュータと法			LA108	1	○		○	○							○				
	AI・データサイエンス入門 1			2, 3, 4	LA201	3			○	○		○								
	AI・データサイエンス入門 2				LA202	4			○	○		○								
言語と文化	英語 1	1, 2, 3, 4	2	LB101	1			○		○				○						
	英語 2			LB102	2			○		○					○					
	英語圏文化 a			LB103	1	○		○		○			○	○						
	英語圏文化 b			LB104	1	○		○		○			○	○						
	フランス語 1			LB105	1			○		○				○						
	フランス語 2			LB106	2			○		○				○						
	フランス語圏文化 a			LB107	1	○		○		○			○	○						
	フランス語圏文化 b			LB108	1	○		○		○			○	○						
	ドイツ語 1			LB109	1			○		○				○						
	ドイツ語 2			LB110	2			○		○				○						
	ドイツ語圏文化 a			LB111	1	○		○		○			○	○						
	ドイツ語圏文化 b			LB112	1	○		○		○			○	○						
	中国語 1			LB113	1			○		○				○						
	中国語 2			LB114	2			○		○				○						
	中国語圏文化 a			LB115	1	○		○		○			○	○						
	中国語圏文化 b			LB116	1	○		○		○			○	○						
	基礎日本語読解			LB117	1			○		○				○						
	基礎日本語聴解発話			LB118	1			○		○				○						
	基礎日本語レポート			LB119	1			○		○				○						
	実力日本語読解			LB120	2			○		○				○						
	実力日本語聴解発話			LB121	2			○		○				○						
	実力日本語レポート			LB122	2			○		○				○						
	大学日本語読解			LB123	3			○		○				○						
	大学日本語聴解発話			LB124	3			○		○				○						
	大学日本語レポート			LB125	3			○		○				○						
	英語 3			2, 3, 4	2	LB201	3			○		○				○				
	英語 4					LB202	4			○		○				○				
	フランス語 3					LB203	3			○		○				○				
	フランス語 4					LB204	4			○		○				○				
	ドイツ語 3					LB205	3			○		○				○				
	ドイツ語 4					LB206	4			○		○				○				
	中国語 3					LB207	3			○		○				○				
	中国語 4					LB208	4			○		○				○				
	総合日本語					LB209	2			○		○				○				
	ビジネス日本語 1					LB210	2			○		○				○				
1, 2, 3, 4	スペイン語圏文化 a	2	LB126	1	○		○		○			○								
	スペイン語圏文化 b		LB127	1	○		○		○			○								
	コリア語圏文化 a		LB128	1	○		○		○			○								
	コリア語圏文化 b		LB129	1	○		○		○			○								
2, 3, 4	コリア語 1	2	LB211	1			○		○			○								
	コリア語 2		LB212	2			○		○			○								
	スペイン語 1		LB213	1			○		○			○								
	スペイン語 2		LB214	2			○		○			○								
3	実用日本語	2	LB301	3			○		○			○								
	ビジネス日本語 2		LB302	3			○		○			○								

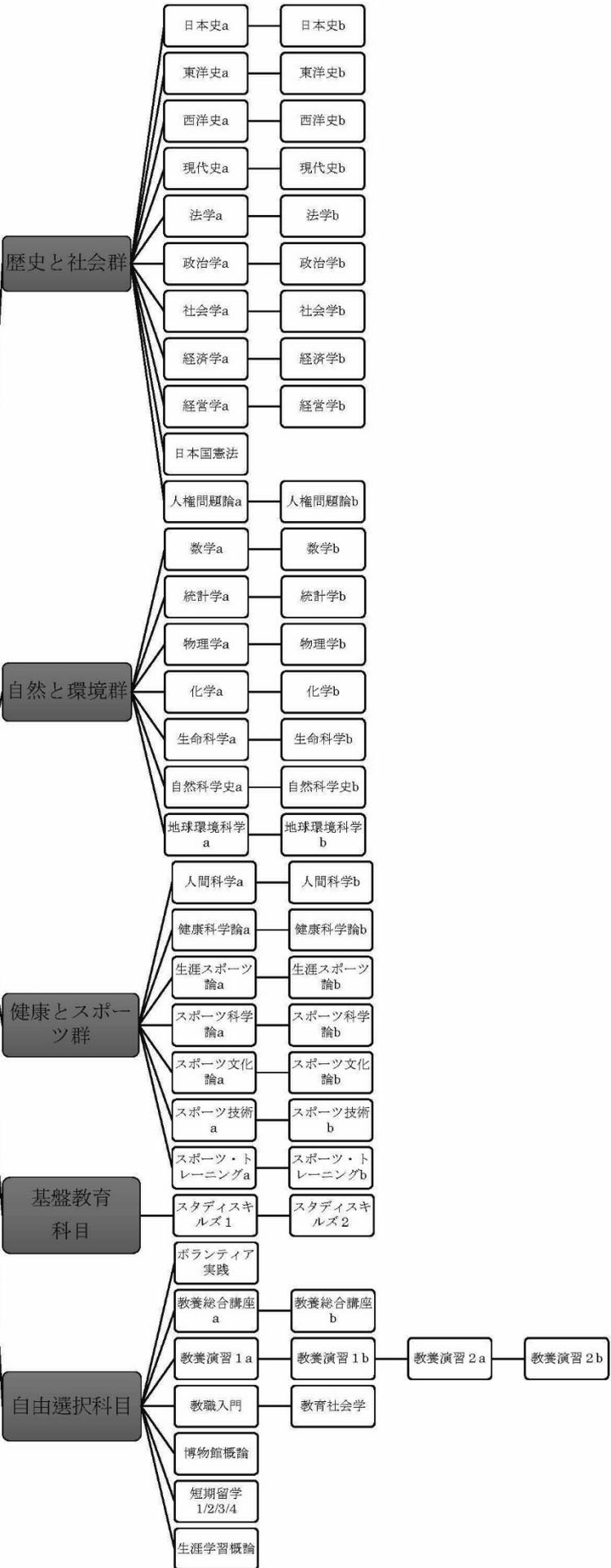
科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	レベル	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
人間と文化	哲学 a	1, 2, 3, 4	2	LC101	1	○		○			○		○	○	○		
	哲学 b			LC102	1	○		○			○		○	○	○		
	倫理学 a			LC103	1	○		○			○		○	○	○		
	倫理学 b			LC104	1	○		○			○		○	○	○		
	論理学 a			LC105	1	○		○			○						
	論理学 b			LC106	1	○		○			○						
	心理学 a			LC107	1	○		○		○	○		○		○		
	心理学 b			LC108	1	○		○		○	○		○		○		
	教育学 a			LC109	1	○		○			○				○		
	教育学 b			LC110	1	○		○			○				○		
	日本文学 a			LC111	1	○		○			○	○					
	日本文学 b			LC112	1	○		○			○	○					
	外国文学 a			LC113	1	○		○			○	○					
	外国文学 b			LC114	1	○		○			○	○					
	地理学 a			LC115	1	○		○			○	○					
	地理学 b			LC116	1	○		○			○	○					
	文化人類学 a			LC117	1	○		○			○	○					
	文化人類学 b			LC118	1	○		○			○	○					
	観光文化論			LC119	1	○		○			○	○					
	現代日本事情 a			LC120	1	○		○			○	○					
	現代日本事情 b			LC121	1	○		○			○	○					
歴史と社会	日本史 a	1, 2, 3, 4	2	LD101	1	○		○			○	○					
	日本史 b			LD102	1	○		○			○	○					
	東洋史 a			LD103	1	○		○			○	○					
	東洋史 b			LD104	1	○		○			○	○					
	西洋史 a			LD105	1	○		○			○	○					
	西洋史 b			LD106	1	○		○			○	○					
	現代史 a			LD107	1	○		○			○	○					
	現代史 b			LD108	1	○		○			○	○					
	法学 a			LD109	1	○		○			○	○					
	法学 b			LD110	1	○		○			○	○					
	政治学 a			LD111	1	○		○			○	○					
	政治学 b			LD112	1	○		○			○	○					
	社会学 a			LD113	1	○		○			○	○					
	社会学 b			LD114	1	○		○			○	○					
	経済学 a			LD115	1	○		○			○	○					
	経済学 b			LD116	1	○		○			○	○					
	経営学 a			LD117	1	○		○			○	○					
	経営学 b			LD118	1	○		○			○	○					
	日本国憲法			LD119	1	○		○			○	○			○		
	人権問題論 a			LD120	1	○		○			○	○			○		
	人権問題論 b			LD121	1	○		○			○	○			○		
自然と環境	数学 a	1, 2, 3, 4	2	LE101	1	○		○			○						
	数学 b			LE102	1	○		○			○						
	統計学 a			LE103	1	○		○			○						
	統計学 b			LE104	1	○		○			○						
	物理学 a			LE105	1	○		○			○						
	物理学 b			LE106	1	○		○			○						
	化学 a			LE107	1	○		○			○						
	化学 b			LE108	1	○		○			○						
	生命科学 a			LE109	1	○		○			○						
	生命科学 b			LE110	1	○		○			○						
	自然科学史 a			LE111	1	○		○			○						
	自然科学史 b			LE112	1	○		○			○						
	地球環境科学 a			LE113	1	○		○			○						
	地球環境科学 b			LE114	1	○		○			○						

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	レベル	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪			
健康とスポーツ	人間科学 a	1, 2, 3, 4	2	LF101	1	○		○			○		○						
	人間科学 b			LF102	1	○		○			○		○						
	健康科学論 a			LF103	1	○		○			○		○						
	健康科学論 b			LF104	1	○		○			○		○						
	生涯スポーツ論 a			LF105	1	○		○			○		○						
	生涯スポーツ論 b			LF106	1	○		○			○		○						
	スポーツ科学論 a			LF107	1	○		○			○		○						
	スポーツ科学論 b			LF108	1	○		○			○		○						
	スポーツ文化論 a			LF109	1	○		○			○		○						
	スポーツ文化論 b			LF110	1	○		○			○		○						
	スポーツ技術 a			LF111	1	○		○			○		○						
	スポーツ技術 b			LF112	1	○		○			○		○						
	スポーツ・トレーニング a			LF113	1	○		○			○		○						
	スポーツ・トレーニング b			LF114	1	○		○			○		○						
基盤教育科目	スタディスキルズ 1	1	2	LG101	1			○		○									
	スタディスキルズ 2			LG102	2		○		○										
自由選択科目	ボランティア実践	1, 2, 3, 4	2	LH101	1	○		○					○						
	教養総合講座 a			LH102	1	○		○				○							
	教養総合講座 b			LH103	1	○		○				○							
	教養演習 1 a			LH104	1	○		○					○						
	教養演習 1 b			LH105	1	○		○					○						
	教養演習 2 a			LH106	2	○		○					○						
	教養演習 2 b			LH107	2	○		○						○					
	教職入門			LH108	1			○			○		○	○	○				
	博物館概論			LH109	1	○		○					○						
	短期留学 1			LH110	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 2			LH111	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 3			LH112	1	○		○			○	○	○	○					
	短期留学 4			LH113	1	○		○			○	○	○	○					
	教育社会学	LH201	2, 3, 4	2	1	○		○			○		○						
	生涯学習概論	LH202	2, 3, 4	2	1	○		○			○		○						
	教養総合講座 a (Aクラス)	LH301	3, 4	2	3	○		○			○		○						
	教養総合講座 b (Aクラス)	LH302			3	○		○			○		○						
	教養演習 1 a (Cクラス)	LH303			3	○		○			○		○						

一般教育科目



一般教育科目



H 経営情報学部学科科目

履修要領

CONTENTS

1. 経営情報学部の教育目標	H-1
2. 学科科目	H-8
(1) 必修科目	H-8
(2) 基本選択科目	H-8
(3) 基幹選択科目	H-8
(4) 全員履修科目	H-9
(5) 「専門演習入門」「専門演習1」 「専門演習2」	H-9
(6) 卒業論文	H-9
(7) 他学部科目の受講	H-9
(8) 成績不振者への対応	H-9
(9) クラス指定表	H-10
(10) 演習担当者表	H-10
(11) 科目区分別一覧表	H-11
(12) 学科科目配当表（必修科目）	H-12
(13) 学科科目配当表（選択科目）	H-12
(14) 学科科目配当表（自由選択科目）	H-13, 14
(15) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	H-15
3. 履修モデル	H-17

1. 経営情報学部経営情報学科の教育目標

(1) 経営情報学部経営情報学科の教育目的

複雑・高度化する企業経営の知識と情報システムの利用技術を兼ね備え、情報化する企業と国際社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成。

(2) 卒業認定・学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

阪南大学経営情報学部は、阪南大学ディプロマ・ポリシー (以下 DP とする) を前提として、複雑に情報要素の絡んだ現代の経営環境を理解し、適確にビジネスを遂行、あるいは新たなビジネスフロンティアを開拓できる知識・能力を身につけた学生に学位を授与する。具体的には、以下に示す知識と能力を要件とする。

【基本的要件】

<知識・理解>

DP1：経営・会計に関する知識

複雑化高度化した経営環境に即応した事業運営を行うために必要な、経営・会計に関する基本的な知識を修得している。

DP2：マーケティング・e ビジネスに関する知識

国内および国際ビジネスを展開するために必要とされるマーケティング・e ビジネスに関する基本的な知識を修得している。

DP3：マルチメディア・情報システムに関する知識

高度情報化社会を牽引するのに必要な、マルチメディアや情報システムを利用するための基本的な知識を修得している。

<態度・志向性>

DP4：新分野への関心と自己表現

新しいビジネスに関心を持ち、明確な自己表現ができる。

DP5：主体性と協働

幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、主体性を持っていろいろな人々と協働できる。

【具体的要件】

DP6：事業の運営能力・起業能力

事業の運営を担う知識を修得しており、企業において与えられた役割を担える能力、もしくは自ら起業する能力を有する。

DP7：分析力

企業分析を通じ、経営戦略に関してなんらかの提案を行う能力を有する。

DP8：情報活用能力

AI・データサイエンスに関する技術やデータ分析の手法を、多様なビジネス機会に応用する能力を有する。

DP9：文理融合型の思考能力

数理的な思考方法と経営分野の知識を兼ね備えた人材として活躍する能力を有する。

DP10：システムもしくはコンテンツの構築力

情報技術を駆使し、システムを構築する能力あるいはコンテンツを制作する能力を有する。

DP11：社会問題の分析力

社会の問題・課題を主体的に把握し分析する能力を有する。

DP12：自己表現力

資格取得や社会活動などを通じて自己実現が可能である。

(3) 教育課程に関する方針（カリキュラムポリシー）

ディプロマポリシー（以下DPとする）に定めた人材を育成するために、以下のカリキュラムを設置する。学科科目は、コース共通科目を基礎に6つの分野からなる3コースの学科科目を設定する。3コースは連携し、相互に補完しあう体制を組む。数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、学科科目のうちで、データサイエンス・AI関連科目と、これを学ぶために必要な科目とを編成したものである。

(情第1表)

コース	分野
経営・会計	企業・経営
	会計・財務
マーケティング・eビジネス	統計・マーケティング
	グローバル・eビジネス
マルチメディア・情報システム	マルチメディア・ネットワーク
	情報システム・プログラミング

①各コース共通

経営と情報の基礎、産業社会への関心、論理的・数理的・統計的思考を培う科目を提供する。そのために、「経営学入門」「IT入門」「ビジネスデータ分析1」「ビジネスデータ分析2」を設置する。また、「大学入門ゼミ」および専門演習科目を設置する。（DPの基本的要件およびDP11, 12を満たす。）

②経営・会計コース

企業・経営分野と会計・財務分野の2分野で構成する。労務や財務など経営管理、企業の仕組みと理論、企業経営の実践的知識や会計情報の実践的活用の学びを提供する。（DP6, 7を満たす。）

③マーケティング・eビジネスコース

統計・マーケティング分野とグローバル・eビジネス分野の2分野で構成する。データを使った統計分析とマーケティング、国際ビジネスとeビジネスの理論および実践的な学びを提供する。（DP7, 8, 9を満たす。）

④マルチメディア・情報システムコース

マルチメディア・ネットワーク分野と情報システム・プログラミング分野の2分野で構成する。マルチメディアと情報システムの理論、プログラミングやシステム制作の実践の学びを提供する。（DP8, 10を満たす。）

⑤数理・データサイエンス・AI教育プログラム（2020年度入学生から適用）

データサイエンスやAIと、それを学ぶための基礎となる科目群である。数理・統計・情報処理・データサイエンスの4つの科目群から成る。AI科目はデータサイエンス科目群に含まれる。データサイエンス科目群は、数理・統計・情報処理の基礎を踏まえた科目群として位置づけられる。（DP8, 9を満たす。）

高学年に配当されている科目は低学年に配当されている科目の知識を前提とする体系となっている。なお、この教育プログラムは、カリキュラム上のコースではなく、3コース共通のものである。

(4) 入学者受け入れの方針 (アドミッションポリシー)

【入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)】

阪南大学経営情報学部は、建学の精神およびミッションステートメントに則り、阪南大学アドミッション・ポリシーを前提として、次に掲げる人の入学を希望する。

- (1) 知識・技能については、特に英語・国語・数学および理科または社会分野に関する基礎的な内容を身につけている人
- (2) 思考力・判断力については、阪南大学アドミッション・ポリシー記載のものに加えて、明確な根拠に基づいて筋道立てて考える能力がある人
- (3) 関心・意欲については、以下のいずれかにあてはまる人
 - (3-1) 企業の経営や店舗の運営を行うことを目指す人
 - (3-2) 情報技術やデータ分析の手法を身につけることで、国内外の企業において活躍しようとする人
 - (3-3) 情報分野や経営・会計分野でのエキスパートを目指す人
 - (3-4) 新たなビジネスに挑戦しようとする人

そのため、阪南大学アドミッション・ポリシーに沿って、次に掲げる入学者選抜を行う。

○総合型選抜入試 (A0入試) (専願)

総合型選抜入試 (A0入試) では、与えられた課題に対するプレゼンテーション、グループ討議、もしくは論理的思考能力を問う問題と、提出書類・面接によって、知識・思考力・表現力・主体性を審査し、入学後の伸びしろや他の人々とともに主体性をもって学ぶことができるかどうかを評価する。

○推薦入試

①指定校推薦入試 (専願)

指定校推薦入試においては、高等学校との信頼関係を基本として学力試験を免除し、提出書類と面接によって評価・選抜を行う。提出書類では、本学部での学びに必要な学力、高等学校での学習進度、生活態度、人物等の適性を審査し、面接においては本学部への学びに対する関心・意欲・態度といった目的意識、ならびに自分の考えをまとめ表現できる思考力・判断力・表現力等を審査する。また、これまでに取得したビジネスや情報関連の資格、高等学校における学修状況など、技能や学修態度も評価の対象とする。

②総合型選抜入試 (女子学生特別入試) (専願)

総合型選抜入試 (女子学生特別入試) においては、社会で活躍するために自身のキャリアアップを積極的にはかることができる女子学生を育成するという本入試の趣旨が理解できているか、入学後実際にどのようなことがしたいのかを中心に、提出書類と面接によって、目的意識・思考力・表現力・熱意・本学部への適性を審査する。

③スポーツ・文化推薦入試 (専願)

スポーツ・文化推薦入試では、阪南大学アドミッション・ポリシーに定める出願資格を持ち、かつ本学部への入学を強く希望する人を対象に、提出書類・面接によって知識・思考力・表現力・主体性を審査し、入学後の伸びしろや他の人々とともに主体性をもって学ぶことができるかどうかを評価する。

④スポーツ特別推薦入試 (専願)

スポーツ特別推薦入試では、阪南大学アドミッション・ポリシーに定める出願資格を持ち、かつ本学部への入学を強く希望する人を対象に、提出書類・面接によって知識・思考力・表現力・主体性を審査し、入学後の伸びしろや他の人々とともに主体性をもって学ぶことができるかどうかを評価する。

⑤公募制推薦入試 (併願)

公募制推薦入試においては、基礎学力試験と調査書等の提出書類及び高校在学中に取得した資格によって総合的に評価・選抜する。基礎学力試験では、本学部での学びに足る国語力に加えて、国際的な情報の受発信に必要な英語力、もしくは論理的思考の基礎となり各種ビジネス統計に必要とされる数学の能力、さらに複雑化高度化する現代社会を理解する社会科の能力など、主として知識・技能を問う試験を行う。

○一般入試

①一般入試（前期・後期）

一般入試では学力試験による評価・選抜を行う。本学部での学びに足る国語力に加えて、国際的な情報の受発信に必要な英語力、もしくは論理的思考の基礎となり各種ビジネス統計に必要とされる数学の能力、さらに複雑化高度化する現代社会を理解する社会科の能力など、主として知識・技能を問う試験を行う。

②大学入学共通テスト利用入試（前期・後期）

大学入学共通テスト利用入試においては、本学部独自の試験は行わず、大学入学共通テスト受験生のうち本学部への入学を希望する者の中から、本学部への入学に足る学力を有するものを選抜する。

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
必修科目	I T入門	1234	2	IA101			○	○				○					
	経営学入門			IA102	○	○		○	○								
	ビジネスデータ分析 1	234	2	IA303		○	○	○			○	○	○		○		
	ビジネスデータ分析 2			IA404		○	○	○			○	○	○		○		
	専門演習入門			IA405	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専門演習 1	34	4	IA506	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	専門演習 2	4		IA907	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
基本選択科目	一般・人間力	基礎数学	1234	2	IB201	○		○				○	○	○		○	
	経営・会計	簿記・会計学入門 1	1234	2	IB102	○					○	○					○
		簿記・会計学入門 2			IB203	○					○	○					
	マーケティング・e ビジネス	マーケティング・e コマース入門	1234	2	IB204		○		○			○					○
	マルチメディア・情報システム	情報処理入門	1234	4	IB105			○						○		○	
		マルチメディア入門			IB206			○					○		○		
		ネットワーク演習		IB209			○						○		○		
		マルチメディア演習		IB108			○						○		○		
		情報処理入門		IB105			○						○		○		
		プログラミング入門		IB207			○						○		○		
		プログラミング 1		IB110			○						○		○		
		プログラミング 2		IB211			○						○		○		
	基幹選択科目	経営・会計	経営学	1234	4	IC201	○	○		○		○	○				
			企業論	234		IC302	○			○		○	○				
企業分析論			IC402		○			○		○	○					○	
マーケティング・e ビジネス		マーケティング論	234	4	IC304		○		○			○					
		経営統計学			IC305		○		○		○	○	○				
		e ビジネス論		2	IC306		○		○			○					
		国際ビジネス論			IC307		○		○			○					
マルチメディア・情報システム		ネットワーク論	234	2	IC309			○						○		○	
		マルチメディア論			IC408			○						○		○	
		情報デザイン 1		IC310			○						○		○		
		情報デザイン 2		IC411			○						○		○		
		データベース論		IC312			○						○		○		
		システム開発論		IC413			○						○		○		
	データベース演習	4		IC414			○					○		○			

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
自由選択科目	一般・人間力	大学入門ゼミ	1	2	ID101	○	○	○	○	○		○	○			○		
		日本経済論	1234	4	IE303	○			○		○	○						
		ファッションとIT		2	IE472			○	○				○					
		情報と職業			IE402			○	○				○		○			
		情報産業論			IE401			○	○				○		○			
		企業と倫理	234	4	IE504	○				○							○	
		職業指導		4	IE606	○				○							○	○
		先端技術論			IE607			○	○				○	○	○	○		
		経営科学			IE509	○								○		○		
		経営数学	34	4	IE508	○						○	○	○		○		
		経営モデル分析		2	IE811	○			○		○	○	○	○				
		シミュレーション法			IE812	○					○	○	○	○	○			
		数理統計学		4	IE710	○						○	○	○		○		
		多変量解析	2	IE813	○							○	○	○		○		
		自由選択科目	経営・会計	企業・経営	経営史	234	4	IE614	○			○	○					
経営実践講座 a	2				IE515		○	○		○		○	○					
経営実践講座 b					IE616		○	○		○		○	○					
経営管理論	4				IE617		○			○		○	○					
中小企業論					IE621	○			○		○	○						
中小企業家同友会寄付講座	34				2	IE823	○	○		○		○	○				○	
経営財務論				4	IE818	○			○		○	○				○		
経営情報論					IE720	○			○		○	○		○		○		
人的資源管理論					IE719	○			○		○	○				○		
日本型経営論	2			IE822	○			○		○	○				○			
会計・財務	簿記1			1234	4	IE424	○					○	○					○
	簿記2				4	IE425	○						○	○				○
	マネジメントゲーム			234	2	IE526	○					○	○					
	財務会計システム論				4	IE630	○					○	○				○	
	管理会計システム論			IE629		○						○	○				○	
	情報会計論	IE727	○								○	○			○			
	現代株式会社論	IE728	○								○	○			○			
	会計学特別講義1	34	2	IE731	○					○	○				○			
	会計学特別講義2			IE832	○						○	○			○			
	会計学特別講義3		4	IE733	○						○	○			○			
会計学特別講義4	IE834			○						○	○			○				
マーケティング・eビジネスコース	統計・マーケティング	ビジネスモデル論	234	2	IE570		○		○		○	○			○			
		イノベーション論			IE571		○		○		○	○			○			
		販売管理論1		IE635		○		○		○	○			○	○			
		経営戦略論	4	IE638		○		○		○	○			○				
		販売管理論2	34	2	IE736		○		○		○	○			○	○		
		マーケティングリサーチ			IE739		○		○		○	○			○			
		インターネットマーケティング		4	IE840		○		○		○	○			○			
		経営組織論			IE837		○		○		○	○			○			

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
マーケティング・eビジネスコース	総合講座(インターネット・エコミ)	1234	2	IE341		○		○		○	○	○			○			
	金融論入門			IE342	○	○		○			○					○		
	国際ビジネス入門			IE369	○	○		○			○					○		
	グローバルコミュニケーション			IE443	○	○		○			○					○		
	デジタルコミュニケーション			IE444		○	○	○			○	○						
	グローバル・eビジネス	234	2	IE667	○	○		○			○				○			
	国際経営論			IE668		○		○			○					○		
	国際産業論			IE645		○		○			○							
	金融テクノロジー			IE549	○	○		○	○	○	○					○		
	ベンチャービジネス論			IE650		○		○			○					○		
	国際マーケティング	34	4	IE746	○	○		○		○	○				○			
	eコマース経営論			IE848		○		○			○				○			
	国際金融論			IE847	○	○		○			○					○		
	多国籍企業論																	
	マルチメディア・情報システム	情報処理技術の基礎講座1	1234	4	IE351			○					○		○		○	
情報処理技術の基礎講座2		IE452					○						○		○		○	
情報科学特別講義1		34	2	IE352			○					○		○				
情報科学特別講義2				IE453			○						○		○			
マルチメディア・ネットワーク		CG1	234	2	IE553			○					○		○			
		CG2			IE654			○						○		○		
		ゲーム制作1	34	2	IE757			○					○		○			
		ゲーム制作2			IE858			○					○		○			
		マルチメディア制作1			IE755			○						○		○		
		マルチメディア制作2			IE856			○						○		○		
システムプログラミング		コンピュータ構成論	234	2	IE560			○					○		○			
		プログラム構成論			IE661			○						○		○		
		プログラミング講座	34	4	IE662			○					○		○		○	
		プログラミング言語論			IE659			○						○		○		
		システム制作			IE864			○						○		○		
	ソフトコンピューティング	IE763					○						○		○			
その他	経営情報特別講義1(事業承継論)	1234	2	IE373	○			○	○	○	○					○		
	経営情報特別講義2(消費者行動論1)			IE474		○		○					○			○		
	経営情報特別講義3(国際貿易論)			IE375		○		○					○			○		
	経営情報特別講義4(消費者行動論2)			IE476		○		○					○			○		
	経営情報特別講義5(産学連携プロジェクト・社会人基礎力の養成1)			IE377	○			○	○	○	○	○				○		
	経営情報特別講義6(産学連携プロジェクト・社会人基礎力の養成2)			IE478	○			○	○	○	○	○				○		
	2021年度以降入学生用科目	事業承継論	1234	2	IE379	○			○	○	○	○					○	
		消費者行動論1			IE480		○		○					○				
		消費者行動論2			IE481		○		○					○				
		経営情報特別講義A			IE382	○	○	○		○	○	○	○	○			○	
		経営情報特別講義B			IE483													
		経営情報特別講義C			IE384													
		経営情報特別講義D			IE485													
		経営情報特別講義E			IE386													
		経営情報特別講義F			IE487													
産学連携プロジェクト		4			IE389	○			○	○	○	○				○		

科目の種類	科目名	配当年次	単位数	ナンバリング	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
自由選択科目	数理・データサイエンス・AI教育プログラム 2021年度以降入学生用科目	基礎数学	1234	2	IB201	○		○				○	○	○		○		
		AI 数学入門		2	IE289	○			○			○	○	○				
		経営数学	234	4	IE508	○								○	○	○		
		経営科学		4	IE509	○								○	○	○		
		経営統計学		4	IC305		○		○			○	○	○				
		数理統計学	34	4	IE710	○						○	○	○			○	
		多変量解析		2	IE813	○						○	○	○			○	
		プログラミング入門	1234	2	IB207			○					○			○		
		プログラミング 1		2	IB110			○					○			○		
		プログラミング 2		2	IB211			○					○			○		
		システム開発論	234	2	IC413			○					○			○		
		データベース論		2	IC312			○					○			○		
		マルチメディア論		2	IC408			○					○			○		
		ネットワーク論		2	IC309			○					○			○		
		コンピュータ構成論	234	2	IE560			○					○			○		
		ビジネスデータ分析 1		2	IA303		○	○	○			○	○	○			○	
		ビジネスデータ分析 2		2	IA404		○	○	○			○	○	○			○	
		AI・データサイエンス基礎 1	2		IE690			○	○			○	○	○	○			
		AI・データサイエンス基礎 2			IE691			○	○			○	○	○	○			
		データサイエンス実践	34	2		IE892			○	○	○		○	○	○	○		
AI プログラミング実践		IE893					○	○	○		○	○	○	○				

※ナンバリング

個々の授業科目がどのように連携し関連し合うかが、あらかじめ明示されること。教育課程の内容に関心を持つ全ての人に教育課程の体系が容易に理解できるように、また、個々の授業科目がどのように連携し関連し合い、難易を表現するために上記のとおりナンバリングしています。

1) ナンバリングルール

学部コード、科目区分コード、レベルコード、管理コードから形成されています。それぞれのコードの意味は次のとおりです。

学部コード	コード
経済学部	E
流通学部	B
経営情報学部	I
国際コミ学部	G
国際観光学部	T

科目区分	コード
必修科目	A
基本選択科目	B
基幹選択科目	C
全員履修科目	D
自由選択科目	E

科目種別	レベル	管理番号
初年次基礎系科目等	1	00~99
	2	
初級科目等	3	
	4	
中級科目等	5	
	6	
上級科目等	7	
	8	
4年ゼミ及び卒業論文等	9	

(例)
 ナンバリング: I A 1 0 1
 ナンバリング: I E 5 2 6
 学部 科目区分 レベル 管理番号

2. 学科科目

学科科目の卒業所要単位数は72単位以上である。必修科目（18単位）、基本選択科目（10単位）、基幹選択科目（14単位）、自由選択科目を修得しなければならない。

また、各科目には専門性・難易度を表すレベルが設けられ、後述の履修モデルや授業計画書（シラバス）にあるように基礎から段階的に知識を積み上げながら学習できるようになっていることはもちろん、高校までにすでに学習しているものについては、1年次より高いレベルの授業を選択できるようになっている。

(1) 必修科目

下記のとおり必修科目が配置されており、経営情報学部を卒業するための基礎となる知識を学ぶことができる。

(情第2表)

配当年次	1	2	3	4
科目名	IT入門 経営学入門	専門演習入門 ビジネスデータ分析1 ビジネスデータ分析2	専門演習1	専門演習2

(2) 基本選択科目

下記科目が各分野に配置されている。これらは1年次から履修する事のできる基本科目であり、2年次以降に続く専門科目の基盤となっている。特に、上記2年次必修科目の「ビジネスデータ分析1・2」は下記基本選択科目の全ての要素を含んだ科目となっているので、1年次の間に修得しておくことが望まれる。

また、高校までの学習に応じてレベルの高い科目からスタートすることもできる。

なお、企業・経営分野については、経営学入門が必修になっているので基本選択科目は配置されていない。

(情第3表)

一般・人間力	会計・財務	統計・ マーケティング	グローバル ・eビジネス	マルチメディア ・ネットワーク	情報システム ・プログラミング
基礎数学	簿記・会計学入門1 簿記・会計学入門2	マーケティング ・eコマース入門	情報処理入門		
			マルチメディア入門 マルチメディア演習 ネットワーク演習	プログラミング入門 プログラミング1 プログラミング2	

(3) 基幹選択科目

下記科目が各分野に配置されている。これらは各分野を学習する際には欠かすことのできない幹となる中心科目であることはもちろん、必修科目および基本選択科目とともに学部専門科目の全体の基盤となる科目である。

(情第4表)

企業・経営	会計・財務	統計 ・マーケティング	グローバル ・eビジネス	マルチメディア ・ネットワーク	情報システム ・プログラミング
経営学 企業論	企業分析論	マーケティング論 経営統計学	eビジネス論 国際ビジネス論	マルチメディア論 ネットワーク論 情報デザイン1 情報デザイン2	システム開発論 データベース論 データベース演習

(4) 全員履修科目

必ず全員が履修しなければならない科目である。この科目はあらかじめ学籍番号によりクラスが指定される。また、評価が不合格であっても再履修は認められない。

配当年次	1
科目名	大学入門ゼミ

(5) 「専門演習入門」「専門演習1」「専門演習2」

- ①「専門演習入門」は2年次、「専門演習1」は3年次、「専門演習2」は4年次配当の必修科目である。
- ②「専門演習入門」は事前登録科目であり、担当者の決定は1年次後期に行うが、少人数編成で開講されるため、希望者が定員を超えた場合は選考することがある。
- ③「専門演習1」は事前登録科目であり、担当者の決定は2年次後期に行うが、少人数編成で開講されるため、希望者が定員を超えた場合は選考することがある。
- ④「専門演習1」および「専門演習2」は、同一担当者を継続履修しなければならない。
- ⑤「専門演習1」は「専門演習入門」を修得済でなければ履修できない。
- ⑥「専門演習2」は「専門演習1」を修得済でなければ履修できない。
- ⑦「専門演習入門」「専門演習1」「専門演習2」を不合格になった場合でも、担当者を変更することができない。

(6) 卒業論文

「卒業論文」は「専門演習2」の指導教員のもと、作成する。指導教員の審査に合格することが「専門演習2」の修得条件であり、卒業の最も重要な要件となっている。

なお、卒業論文の審査では、阪南大学経営情報学部の「ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）」を踏まえて、以下の項目を総合的に評価する。なお、卒業研究・卒業制作等の審査にあっても、この基準を準用する。

- ①研究課題の設定が適切で、問題意識が明確である。
- ②研究の目的、方法が示されている。
- ③論理的な一貫性、説得力等が認められる。
- ④研究課題に関する先行研究、あるいは制作課題に関連する事象を把握している。
- ⑤ねつ造、改ざん、盗用等の不正行為がない。

(7) 他学部科目の受講

経営情報学部に設置されていない他学部配当の学科科目を受講することができる。

ただし、一般教育科目・キャリア教育科目と併せて22単位以内に限り、卒業に必要な単位数に算入することができる（配当年次はその学部・学科にしたがう）。

なお、他学部受講可能な科目の詳細は各学部の学科科目配当表を参照すること。

(8) 成績不振者への対応

休学など特別な理由なく、学業成績が著しく悪い者には呼び出しや保護者との面接を行うことがある。

(9) クラス指定表

下記科目は、学籍番号等によってあらかじめ履修するクラスが指定されている。履修する際にガイダンス時に配布されるクラス指定表にしたがって登録すること。

① 必修科目

(情第5表-1)

IT入門		経営学入門		ビジネスデータ分析1・2	
クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
A	花川	A	松下	A	伊田
B	三好	B	奥	B	吉城
				C	菊池
				D	山内
				E	李(兌)
				F	御園
				再	安井(浩)

② 基本選択科目

(情第5表-2)

基礎数学		簿記・会計学入門1・2		情報処理入門		マルチメディア入門		プログラミング入門	
クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
A	濱	A	中條	5A	高橋(真)	A	濱	A	北川
B	石田	B	黒澤(俊)	5B	藤居(大)	B	小松(久)	B	木山(恒)
C	阿部	C	岡(照)	5C	山田(明)	C	村上(芳)	C	藤居(大)
D	濱	D	吉城	5D	中野(敦)	D	松村(寿)	D	山田(明)
E	石田	E	岡(照)	5E	伏尾(有)	E	中村(雅)	E	中野(敦)
F	松浦	F	金戸(武)	5F	木山(恒)	F	阿部(恭)	F	伏尾(有)
						G	池田(徹)	G	川端(緑)

(情第5表-3)

マーケティング・eコマース入門	
クラス	担当者
A	李(兌)・伊田・菊池・山内
B	

(10) 演習担当者表

(情第6表-1)

	大学入門ゼミ				専門演習入門			
担当者	李 兌賢	菊池 史光	李 兌賢	Gordon G. wilson	李 兌賢	奥 康平		
	奥 康平	李 炳夏	伊田 昌弘	奥 康平	伊田 昌弘	北川 悦司		
	中條 良美	松下 幸史朗	菊池 史光	北川 悦司	菊池 史光	中條 良美		
	松田 健	光安 知佳子	田上 博司	中條 良美	田上 博司	濱 道生		
	御園 謙吉	森 芳周	花川 典子	濱 道生	花川 典子	前田 利之		
	三好 哲也	吉城 唯史	李 炳夏	前田 利之	李 炳夏	松田 健		
	山内 孝幸	竜 浩一	松下 幸史朗	松田 健	松下 幸史朗	御園 謙吉		
	濱 道生		光安 知佳子	御園 謙吉	光安 知佳子	三好 哲也		
			森 芳周	三好 哲也	森 芳周	山内 孝幸		
			吉城 唯史	山内 孝幸	吉城 唯史	竜 浩一		

(情第6表-2)

	専門演習 1				専門演習 2			
担当者	李 允賢	伊田 昌弘	李 允賢	大久保 いづみ				
	Gordon G. wilson	奥 康平	伊田 昌弘	菊池 史光				
	菊池 史光	北川 悦司	Gordon G. wilson	田上 博司				
	花川 典子	中條 良美	奥 康平	花川 典子				
	松下 幸史朗	濱 道生	北川 悦司	松下 幸史朗				
	松田 健	前田 利之	中條 良美	光安 知佳子				
	光安 知佳子	御園 謙吉	濱 道生	森 芳周				
	森 芳周	李 炳夏	前田 利之	吉城 唯史				
吉城 唯史	山内 孝幸	御園 謙吉	竜 浩一					
	竜 浩一	三好 哲也	山内 孝幸					

(11) 科目区分別一覧表

(情第7表)

コース	分野	必修	基本選択	基幹選択	自由選択
	一般・人間力	IT入門 経営学入門 ビジネスデータ分析1 ビジネスデータ分析2 専門演習入門 専門演習1 専門演習2	基礎数学		情第10表
経営・会計	企業・経営			経営学 企業論	
	会計・財務		簿記・会計学入門1 簿記・会計学入門2	企業分析論	
マーケティング・eビジネス	統計 ・マーケティング		マーケティング ・eコマース入門	マーケティング論 経営統計学	
	グローバル ・eビジネス		eビジネス論 国際ビジネス論		
マルチメディア情報システム	マルチメディア ・ネットワーク		マルチメディア入門 マルチメディア演習 ネットワーク演習	マルチメディア論 ネットワーク論 情報デザイン1 情報デザイン2	
	情報システム ・プログラミング		プログラミング入門 プログラミング1 プログラミング2	システム開発論 データベース論 データベース演習	
卒業に必要な単位数			18単位	10単位以上	

(12) 経営情報学部経営情報学科学科科目配当表 (必修科目)

(情第8表)

分野	配当 年次	期間	授業科目名	担当者名	単 位 数
必修科目	1234	前	I T入門	情第5表-1	2
		前	経営学入門		2
		前	ビジネスデータ分析1		2
	234	後	ビジネスデータ分析2	情第6表-1	2
		後	専門演習入門		2
	34	通年	専門演習1	情第6表-2	4
	4	通年	専門演習2		4

(13) 経営情報学部経営情報学科学科科目配当表 (選択科目)

(情第9表)

区分	コース	分野	配当 年次	期間	授業科目名	担当者名	単 位 数	
基本 選択科目	一般・人間力		1234	前	基礎数学	情第5表-2	2	
	経営・会計	企業・経営	--	--	--	--	--	
		会計・財務	1234	前	簿記・会計学入門1	情第5表-2	2	
		後		簿記・会計学入門2	2			
	マーケティング ・eビジネス	統計 ・マーケティング	1234	後	マーケティング ・eコマース入門		情第5表-3	2
		グローバル ・eビジネス						
	マルチメディア ・情報システム	マルチメディア ・ネットワーク	1234	前	情報処理入門	情第5表-2	4	
				後	マルチメディア入門		2	
				通年	※ネットワーク演習	前田 利之	4	
		通年		※マルチメディア演習	小杉 美穂子	4		
		情報システム ・プログラミング		前	情報処理入門	情第5表-2	4	
				後	プログラミング入門		2	
	前		プログラミング1	(A)村上 芳子	2			
	後	プログラミング2	(B)池田 徹	2				
基幹 選択科目	経営・会計	企業・経営	1234	後	経営学	(A)松下 幸史朗 (B)奥 康平	4	
		会計・財務	324	前	企業論	奥 康平	4	
		後		企業分析論	中條 良美	4		
	マーケティング ・eビジネス	統計 ・マーケティング	324	前	マーケティング論	山内 孝幸	4	
		前後		経営統計学	御園 謙吉	4		
	グローバル ・eビジネス	前	eビジネス論	伊田 昌弘	2			
		前	国際ビジネス論	伊田 昌弘	2			
	マルチメディア ・情報システム	マルチメディア ・ネットワーク	324	前	ネットワーク論	前田 利之	2	
				前	マルチメディア論	三好 哲也	2	
				前	※情報デザイン1	(A)三好 哲也	2	
		後		※情報デザイン2	(B)伊藤 雅彦	2		
		情報システム ・プログラミング		前	データベース論	北川 悦司	2	
				後	システム開発論	花川 典子	2	
後	※データベース演習		北川 悦司	4				

①基本選択科目・基幹選択科目は他学部受講できない。

②※印の科目については、抽選で受講生を決定する。

(14) 経営情報学部経営情報学科学科科目配当表 (自由選択科目)

(情第10表-1)

区分	配当 年次	期間	授業科目名	担当者名	単 位 数	
一般・人間力	1	前	大学入門ゼミ	情第6表-1	2	
	1234	前	日本経済論	井田 泰人	4	
		後	ファッションとIT	藤井 孝則	2	
		前	情報と職業	巽 利春	2	
		後	情報産業論	藤井 孝則	2	
	234	後	企業と倫理	森 芳周	2	
		通年	職業指導	秋山 弥	4	
		通年	※先端技術論(AI・データサイエンス基礎)	前田 利之	4	
		前	経営科学	古殿 幸雄	4	
		前後	経営数学	不開講	4	
	34	後	経営モデル分析	古殿 幸雄	2	
		後	シミュレーション法		2	
		後	数理統計学	松田 健	4	
		後	多変量解析	不開講	2	
経営・会計コース	企業・経営	234	前	経営史	不開講	4
			前	経営実践講座 a	リレー講義	2
			後	経営実践講座 b		2
			前	経営管理論	松下幸史朗	4
		後	中小企業論	竜 浩一	4	
		34	後	中小企業家同友会寄付講座	リレー講義	2
			通年	経営財務論	中井 誠	4
			前	経営情報論	三好 哲也	4
	前		人的資源管理論	李 炳夏	4	
	後	日本型経営論	安井 恒則	2		
	会計・財務	1234	通年	簿記1	中條 良美	4
			通年	簿記2	松本 有二	4
		234	前	※マネジメントゲーム	吉城 唯史	2
			通年	財務会計システム論	中井 誠	4
		後	管理会計システム論	吉城 唯史	4	
		34	前	情報会計論	中條 良美	4
後			現代株式会社論	奥 康平	4	
前			会計学特別講義1	不開講	2	
後	会計学特別講義2		2			
前	会計学特別講義3	2				
後	会計学特別講義4	2				
eマーケティング コース・ 統計 ・マーケティング	234	前	ビジネスモデル論	不開講	2	
		前	イノベーション論	不開講	2	
		後	販売管理論1	不開講	2	
		前	経営戦略論	奥 康平	4	
	34	前	販売管理論2	不開講	2	
		前	マーケティングリサーチ	菊池 史光	2	
		後	インターネットマーケティング	山内 孝幸	2	
		後	経営組織論	李 炳夏	4	

※印の科目については、抽選で受講生を決定する。

(情第10表-2)

区分		配当年次	期間	授業科目名	担当者名	単位数		
マーケティング・eビジネスコース	グローバル・eビジネス	1234	前	総合講座(インターネット・eコマ)	リレー講義	2		
			前	金融論入門	不開講	2		
			前	国際ビジネス入門	李 炳夏	2		
			後	グローバルコミュニケーション	李 炳夏	2		
			後	デジタルコミュニケーション	三好 哲也	2		
		234	前	国際経営論	石井 利佳	2		
			後	国際産業論	伊田 昌弘	2		
			後	金融テクノロジー	不開講	2		
			前	ベンチャービジネス論	吉野 忠男	2		
			通年	国際マーケティング	石井 利佳	4		
		34	前	eコマース経営論	李 兌賢	4		
			通年	国際金融論	不開講	4		
			後	多国籍企業論	李 兌賢	4		
マルチメディア・ネットワーク	マルチメディア・ネットワーク	1234	前	※情報処理技術の基礎講座1	阿部 恭巨	4		
			通年	情報処理技術の基礎講座2	木山 恒彦	4		
		234	前	※CG1	蒲原 智也	2		
			後	※CG2		2		
		34	前	※ゲーム制作1	井口 貴紀	2		
			後	※ゲーム制作2		2		
			前	※マルチメディア制作1	西田 彩	2		
			後	※マルチメディア制作2	小杉 美穂子	2		
			前	情報科学特別講義1	木山 恒彦	2		
		後	情報科学特別講義2	不開講	2			
		情報システム・プログラミング	情報システム・プログラミング	1234	前	※情報処理技術の基礎講座1	阿部 恭巨	4
					通年	情報処理技術の基礎講座2	木山 恒彦	4
				234	前	※コンピュータ構成論	生方 誠希	2
後	※プログラム構成論				花川 典子	2		
通年	※プログラミング講座				池田 徹	4		
通年	プログラミング言語論				尾花 将輝	4		
34	通年			※システム制作	花川 典子	4		
	前			ソフトコンピューティング	不開講	2		
	前			情報科学特別講義1	木山 恒彦	2		
	後			情報科学特別講義2	不開講	2		
その他	2015~2020年度入学生用科目	1234	後	経営情報特別講義1 (事業承継論)	不開講	2		
			前	経営情報特別講義2 (消費者行動論1)	菊池 史光	2		
			前	※経営情報特別講義3 (データサイエンス実践)	松田 健	2		
			後	経営情報特別講義4 (消費者行動論2)	菊池 史光	2		
			後	※経営情報特別講義5 (A) (産学連携プロジェクト・社会人基礎力の養成1) (B) (AIプログラミング実践)	(A) 不開講 (B) 前田 利之	2		
			後	経営情報特別講義6 (産学連携プロジェクト・社会人基礎力の養成2)	不開講	2		
		1234	後	AI数学入門	(A) 石田 信彦 (B) 濱 道生	2		
			後	事業承継論	不開講	2		
		2021年度以降入学生用科目	1234	後	AI数学入門	(A) 石田 信彦 (B) 濱 道生	2	
				後	事業承継論	不開講	2	

区分		配当年次	期間	授業科目名	担当者名	単位数
その他	2021年度以降入学生用科目	1234	前	消費者行動論1	菊池 史光	2
			後	消費者行動論2	菊池 史光	2
			後	産学連携プロジェクト	不開講	4
			後	経営情報特別講義A (IT業界で働くために・IT産業論)	花川 典子	2
			後	経営情報特別講義B	不開講	2
			前	経営情報特別講義C	不開講	2
			後	経営情報特別講義D	不開講	2
			前	経営情報特別講義E	不開講	2
		後	経営情報特別講義F	不開講	2	
		234	前	※A I・データサイエンス基礎 1	未開講	2
			後	※A I・データサイエンス基礎 2	未開講	2
		34	前	※データサイエンス実践	未開講	2
			後	※A Iプログラミング実践	未開講	2

※印の科目については、抽選で受講生を決定する。

☆経営情報特別講義3（データサイエンス実践）、経営情報特別講義5（A Iプログラミング実践）は、3,4年次配当となる。

(15) ①数理・データサイエンス・A I教育プログラム（2020年度入学生のみ適用）

区分	科目名	配当年次	単位	期間	修得要件	
数理科目	基礎数学	1234	2	前	4単位以上	各区分所定 単位修得の上、 合計20 単位以上
	経営数学	234	4	前 後		
	経営科学	234	4	前		
統計科目	経営統計学	234	4	前 後	4単位以上	
	数理統計学	34	4	後		
	多変量解析	34	2	後		
情報科目	プログラミング入門	1234	2	後	4単位以上	
	プログラミング1	1234	2	前		
	プログラミング2	1234	2	後		
	システム開発論	234	2	後		
	データベース論	234	2	前		
	マルチメディア論	234	2	前		
	ネットワーク論	234	2	前		
データサイエンス科目	ビジネスデータ分析1	234	2	前	6単位以上	
	ビジネスデータ分析2	234	2	後		
	先端技術論 (A I・データサイエンス基礎)	234	4	通 年		
	経営情報特別講義3 (データサイエンス実践)	34	2	前		
	経営情報特別講義5 (A Iプログラミング実践)	34	2	後		

☆履修上の注意

経営情報特別講義5をすでに修得済の場合、経営情報特別講義5（A Iプログラミング実践）は履修できない。

(15) ②数理・データサイエンス・AI教育プログラム（2021年度入学生から適用）

区分	科目名	配当年次	単位	期間	修得要件	
数理科目	基礎数学	1234	2	前	4単位以上	各区分所定 単位修得の上、合計20 単位以上
	経営数学	234	4	前後		
	経営科学	234	4	前		
	AI数学入門	1234	2	後		
統計科目	経営統計学	234	4	前後	4単位以上	
	数理統計学	34	4	後		
	多変量解析	34	2	後		
情報科目	プログラミング入門	1234	2	後	4単位以上	
	プログラミング1	1234	2	前		
	プログラミング2	1234	2	後		
	システム開発論	234	2	後		
	データベース論	234	2	前		
	マルチメディア論	234	2	前		
	ネットワーク論	234	2	前		
	コンピュータ構成論	234	2	前		
データサイエンス科目	ビジネスデータ分析1	234	2	前	6単位以上	
	ビジネスデータ分析2	234	2	後		
	AI・データサイエンス基礎1	234	2	前		
	AI・データサイエンス基礎2	234	2	後		
	データサイエンス実践	34	2	前		
	AIプログラミング実践	34	2	後		

(16) 経営情報学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム成績優秀者表彰制度について

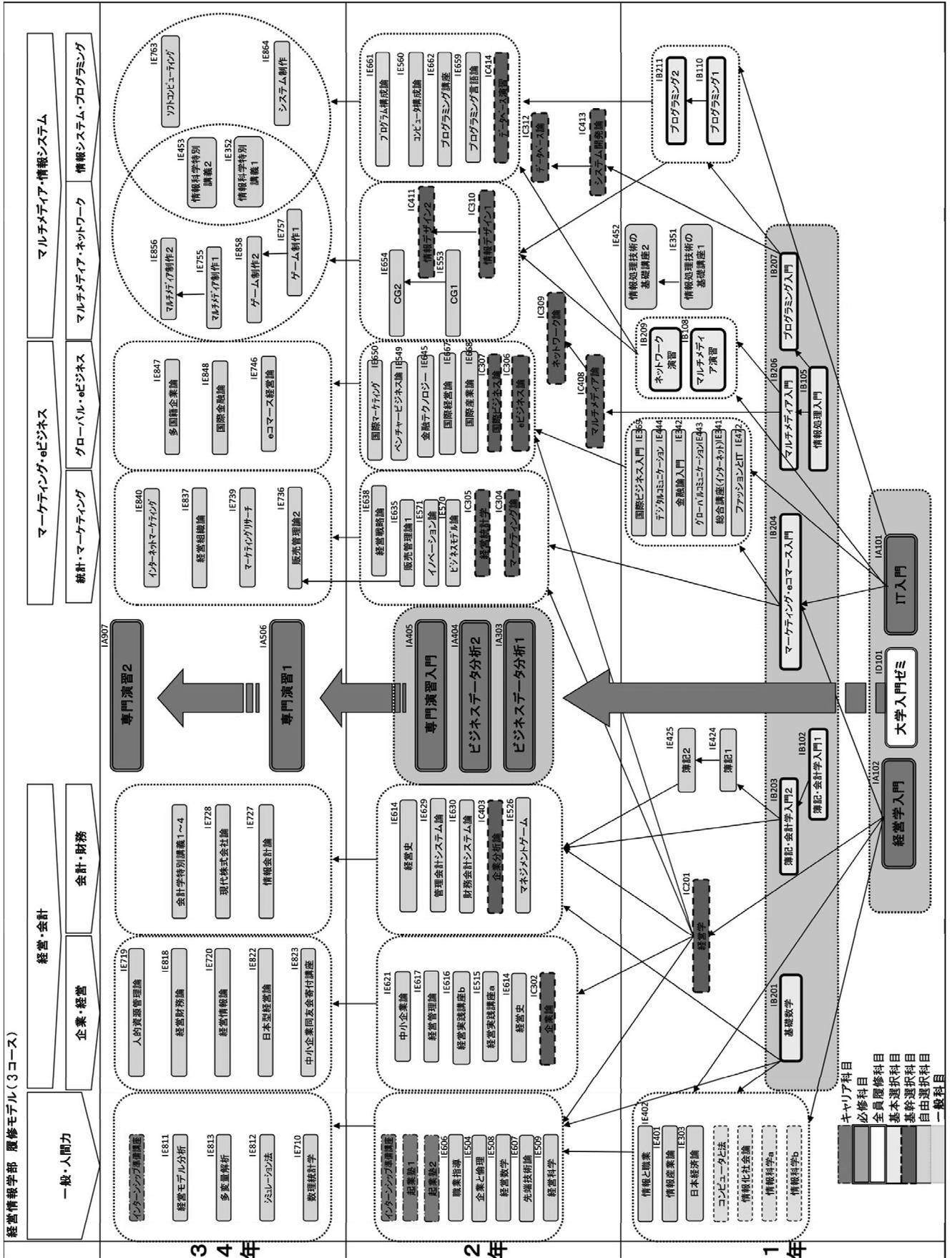
今後社会において、さらに重要性が増し、需要が高まる本教育プログラムの分野専門知識をより多くの者に習得してもらうことを目的に本表彰制度を設ける。

4年次終了時点でこの教育プログラム修了に必要な単位数を修得するだけにとどまらず、より多くの単位（24単位以上）を修得した者を対象に表彰をおこなう。

詳細については学部ガイダンスおよび教務課で確認すること。

3. 履修モデル

(情第11表-1)



(情 第 1 1 表 - 2)

	【2020年度生】 数理・データサイエンスAI教育プログラム 履修モデル				【2021年度以降生】 数理・データサイエンスAI教育プログラム 履修モデル				
	数理科目 (4単位以上)	統計科目 (4単位以上)	情報科目 (4単位以上)	データサイエンス科目 (6単位以上)	数理科目 (4単位以上)	統計科目 (4単位以上)	情報科目 (4単位以上)	データサイエンス科目 (6単位以上)	
	各区分所定単位修得の上合計20単位以上でプログラム修得								
3・4年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 多変量解析 IE813 数理統計学 IE710 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営情報特別講義5 (AI・プログラミング実践) IE377 経営情報特別講義3 (データサイエンス実践) IE375 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> システム開発論 IC413 データベース論 IC312 マルチメディア論 IC408 ネットワーク論 IC309 コンピュータ構成論 IE560 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営情報特別講義5 (AI・プログラミング実践) IE377 経営情報特別講義3 (データサイエンス実践) IE375 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AIプログラミング実践 IE893 データサイエンス実践 IE892 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営情報特別講義5 (AI・プログラミング実践) IE377 経営情報特別講義3 (データサイエンス実践) IE375 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> システム開発論 IC413 データベース論 IC312 マルチメディア論 IC408 ネットワーク論 IC309 コンピュータ構成論 IE560 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI・データサイエンス基礎2 IE691 AI・データサイエンス基礎1 IE690 ビジネスデータ分析2 IA404 ビジネスデータ分析1 IA303 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AIプログラミング実践 IE893 データサイエンス実践 IE892 </div>
2年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営科学 IE509 経営数学 IE508 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営科学 IE509 経営数学 IE508 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> システム開発論 IC413 データベース論 IC312 マルチメディア論 IC408 ネットワーク論 IC309 コンピュータ構成論 IE560 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営科学 IE509 経営数学 IE508 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 経営科学 IE509 経営数学 IE508 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> システム開発論 IC413 データベース論 IC312 マルチメディア論 IC408 ネットワーク論 IC309 コンピュータ構成論 IE560 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> システム開発論 IC413 データベース論 IC312 マルチメディア論 IC408 ネットワーク論 IC309 コンピュータ構成論 IE560 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI・データサイエンス基礎2 IE691 AI・データサイエンス基礎1 IE690 ビジネスデータ分析2 IA404 ビジネスデータ分析1 IA303 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI・データサイエンス基礎2 IE691 AI・データサイエンス基礎1 IE690 ビジネスデータ分析2 IA404 ビジネスデータ分析1 IA303 </div>
1年	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 基礎数学 IB201 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI数学入門 IE289 基礎数学 IE201 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> プログラミング2 IB211 プログラミング1 IB110 プログラミング入門 IB207 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI数学入門 IE289 基礎数学 IE201 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI数学入門 IE289 基礎数学 IE201 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> プログラミング2 IB211 プログラミング1 IB110 プログラミング入門 IB207 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> プログラミング2 IB211 プログラミング1 IB110 プログラミング入門 IB207 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI数学入門 IE289 基礎数学 IE201 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> AI数学入門 IE289 基礎数学 IE201 </div>

必修科目
 基本選択科目
 基幹選択科目
 自由選択科目

必修科目
 基本選択科目
 基幹選択科目
 自由選択科目

会計・経営分野履修モデル

(情第11表-3)

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門	★ ▽専門演習入門	★ ▽ビジネスデータ分析1	★ ▽専門演習入門	★★★ △△情報会計論	★★★ ▽日本型経営論	★★★ ▽現代株式会社論	★★★ ▽▽多国籍企業論
★ △経営学入門	★ ▽ビジネスデータ分析2	★★★ △△企業論	★★★ ▽▽中小企業論	★★★ 経営財務論	★★★ △△経営情報論	★★★ ▽▽経営組織論	
	★ ▽▽経営学	★★★ △経営管理論	★★ ▽▽経営史	★★★ △△経営情報論	★★★ △△経営労務論	★★★ △ベンチャービジネス論	
★ △簿記・会計学 入門1	★ △経営実践講座 a	★★ △経営実践講座 b	★★ ▽経営実践講座 b	★★★ △△経営情報論	★★★ △△経営労務論		
	★★ △マネジメントゲーム	★★ ▽経営戦略論	★★★ ▽▽経営戦略論				
	★★★ △△マーケティング論	★★ ▽企業と倫理	★★★ ▽▽経営組織論				
★ △△日本経済論	★★★ インターンシップ準備講座	★★★ インターンシップ準備講座	★★★ インターンシップ準備講座	★★★ インターンシップ準備講座	★★★ インターンシップ準備講座		

□ : 必修科目

□ : 基本選択科目

□ : 基幹選択科目

□ : 自由選択科目

★印は科目の難易度を表している。

□ : キャリア科目

会計・財務分野一般型履修モデル

(情第11表-4)

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門	★ △経営学入門	★★★ ▽専門演習入門	★★★ ▽ビジネスデータ分析2	★★★ ▽専門演習1	★★★ ▽日本型経営論	★★★ ▽会計学特別講義1	★★★ ▽会計学特別講義2
★ △経営学入門	★★★ △ビジネスデータ分析1	★★★ △△企業論	★★★ △△経営管理論	★★★ 経営財務論	★★★ ▽財務会計システム論	★★★ ▽管理会計システム論	★★★ ▽現代株式会社論
★ △簿記・会計学入門1	★★★ △△経営学	★★★ △△経営管理論	★★★ △マネジメントゲーム	★★★ △△情報会計論	★★★ ▽▽経営組織論	★★★ ▽▽経営モデル分析	★★★ ▽▽簿記・会計学入門2
★ △△日本経済論	★★★ ▽▽経営戦略論	★★★ ▽▽企業分析論	★★★ ▽△企業と倫理	★★★ ▽△情報会計論	★★★ ▽▽経営組織論	★★★ ▽▽経営モデル分析	★★★ ▽▽簿記・会計学入門2

 : 必修科目
 : 基本選択科目
 : 自由選択科目

★印は科目の難易度を表している。

会計・財務分野特化型履修モデル

(情第11表-5)

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △ I T 入門	★ △ 経営学入門	★ △ ビジネスデータ分析 1	★ ▽ 専門演習入門	★ △ ビジネスデータ分析 2	★ ▽ 専門演習 1	★ △ 経営学入門	★ ▽ 専門演習 2
★ 簿記 1	★ △ マネジメントゲーム	★ ▽ 企業分析論	★ △ 情報会計論	★ △ 現代株式会社論	★ △ 情報会計論	★ △ 現代株式会社論	★ △ 現代株式会社論
★ 簿記 2	★ 財務会計システム論	★ ▽ 管理会計システム論	★ △ 会計学特別講義 1	★ ▽ 会計学特別講義 2	★ △ 会計学特別講義 1	★ ▽ 会計学特別講義 2	★ ▽ 会計学特別講義 4
★ △△ 日本経済論	★ ▽ 経営戦略論	★ ▽ 経営戦略論	★ ▽ 経営組織論	★ ▽ 経営組織論	★ ▽ 経営組織論	★ ▽ 経営組織論	★ ▽ 経営組織論
	★ ▽ 企業と倫理	★ ▽ 企業と倫理	★ ▽ 経営モデル分析	★ ▽ 経営モデル分析	★ ▽ 経営モデル分析	★ ▽ 経営モデル分析	★ ▽ 経営モデル分析

 : 必修科目 : 基本選択科目 : 基幹選択科目 : 自由選択科目

★印は科目の難易度を表している。

統計・マーケティング分野履修モデル

(情報11表-6)

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門			★★★ ▽専門演習入門	★★★ △IT入門	★★★ ▽専門演習1	★★★★★ ▽専門演習2	
★ △経営学入門	★★★ △ビジネスデータ分析1	★★★ ▽ビジネスデータ分析2	★★★ ▽経営学入門	★★★★★ △マーケティングリサーチ	★★★★★ △マーケティングリサーチ	★★★★★ ▽多変量解析	
	★ ▽基礎数学	★★★ △△▽経営統計学	★★★ ▽▽経営戦略論	★★★★★ △販売管理論1	★★★★★ △販売管理論2	★★★★★ ▽▽経営組織論	
	★ ▽マーケティング・eコマース入門	★★★ △eビジネス論	★★★ ▽▽経営戦略論	★★★★★ △国際ビジネス論	★★★★★ △国際ビジネス論		
★ △簿記・会計学入門1	★★★ ▽簿記1	★★★★★ インターンシップ準備講座	★★★ 国際マーケティング	★★★★★ インターンシップ準備講座	★★★★★ インターンシップ準備講座		
	★ ▽簿記・会計学入門2						

 : 必修科目
 : 基本選択科目
 : 基幹選択科目
 : 自由選択科目
 : キャリア科目

★印は科目の難易度を表している。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門	★ ▽▽経営学	★ △ビジネスデータ分析1	★ ▽専門演習入門	★ △ビジネスデータ分析2	★ ▽▽中小企業論	★ △ベンチャービジネス論	★ ▽▽多国籍企業論
★ △経営学入門	★ △△企業論	★ △△マーケティング論	★ △△マーケティングインテ	★ △△経営情報論	★ ▽▽経営組織論	★ eコマース経営論	★ 国際金融論
★ △△日本経済論	★ ▽マーケティング・eコマース入門	★ △eビジネス論	★ △国際ビジネス論	★ △マーケティングイングリサーチ	★ △インターネットマーケティング		
★ △金融論入門	★ ▽デジタルコミュニケーション	★ △ネットワーク論	★ ▽▽経営戦略論	★ ▽金融テクノロジー	★ ▽マルチメディア論		
★ △総合講座(イン・エコ)							

: 必修科目 : 基本選択科目 : 基幹選択科目 : 自由選択科目
 ★印は科目の難易度を表している。

(情 第 11 表 - 8)

マ ル チ メ デ ィ ア ・ ネ ッ ト ワ ー ク 分 野 一 般 型 履 修 モ デ ル

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
★ △ I T 入 門	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 入 門	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 入 門	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 1	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 1	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 1	★ ★ ★ ★ ▽ 専 門 演 習 2	
★ △ 経 営 学 入 門	★ ★ ★ ★ △ ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析 1	★ ★ ★ ★ ▽ ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析 2	★ ★ ★ ★ △ ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析 2	★ ★ ★ ★ ▽ ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析 2	★ ★ ★ ★ ▽ ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析 2		
★ △ 情 報 処 理 入 門	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ ▽ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ ▽ マ ル チ メ デ ィ ア 制 作 2
★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 入 門	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ ▽ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ △ マ ル チ メ デ ィ ア 演 習	★ ★ ★ ★ ▽ マ ル チ メ デ ィ ア 制 作 2
★ △ プ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門	★ ★ ★ ★ △ プ ロ グ ラ ミ ン グ 1	★ ★ ★ ★ ▽ プ ロ グ ラ ミ ン グ 2	★ ★ ★ ★ △ プ ロ グ ラ ミ ン グ 1	★ ★ ★ ★ ▽ プ ロ グ ラ ミ ン グ 2	★ ★ ★ ★ △ プ ロ グ ラ ミ ン グ 2	★ ★ ★ ★ ▽ プ ロ グ ラ ミ ン グ 2	
★ ★ ▽ 情 産 業 論	★ ★ △ ネ ッ ト ワ ー ク 論	★ ★ ▽ マ ル チ メ デ ィ ア 論	★ ★ ★ ★ △ C G 1	★ ★ ★ ★ ▽ C G 1	★ ★ ★ ★ ▽ C G 2	★ ★ ★ ★ △ 情 報 科 学 特 別 講 義 1	★ ★ ★ ★ ▽ 情 報 科 学 特 別 講 義 2
★ △ 日 本 経 済 論	★ ★ ▽ 経 営 学	★ ★ △ デ ー タ ベ ー ス 論	★ ★ ★ ★ 情 報 処 理 技 術 の 基 礎 講 座 2	★ ★ ★ ★ 情 報 処 理 技 術 の 基 礎 講 座 2			
△ 情 報 化 社 会 論	▽ コ ン ピ ュ ー タ と 法	★ ★ ★ ★ △ 情 報 処 理 技 術 の 基 礎 講 座 1					
★ △ 総 合 講 座 (イ ン ・ エ コ)							

□ : 必 修 科 目

□ : 基 本 選 択 科 目

□ : 基 本 選 択 科 目

□ : 基 幹 選 択 科 目

□ : 基 幹 選 択 科 目

□ : 自 由 選 択 科 目

★印は科目の難易度を表している。

□ : 一 般 科 目

マルチメディア・ネットワーク分野特化型履修モデル

(情第11表-9)

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門		★★★ ▽専門演習入門	★★★ ▽専門演習1	★★★ ▽専門演習1	★★★ ▽専門演習1	★★★★★ ▽専門演習2	
★ △経営学入門		★★★ △ビジネスデータ分析1	★★★ ▽ビジネスデータ分析2	★★★ △ゲーム制作1	★★★ ▽ゲーム制作2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
★★★★★ △マルチメディア演習	★★★★★ ▽ネットワーク演習	★★★ △データベース論	★★★ △ゲーム制作1	★★★ △CG1	★★★ ▽CG2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
	★★★ ▽情報産業論	★★★ ▽マルチメディア論	★★★ △情報デザイン1	★★★ △CG1	★★★ ▽CG2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
★★★★★ △△情報処理技術の基礎講座1	★★★ ▽デジタルコミュニケーション	★★★ △プログラミング1	★★★ △情報デザイン2	★★★ △CG1	★★★ ▽CG2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
★★★★★ △△情報処理技術の基礎講座1	★★★ ▽情報処理技術の基礎講座2	★★★ △プログラミング2	★★★ △情報デザイン1	★★★ △CG1	★★★ ▽CG2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
★★★★★ △情報化社会論	★★★ ▽インターネットと法	★★★ △コンピュータ構成論	★★★ △情報デザイン2	★★★ △CG1	★★★ ▽CG2	★★★★★ △マルチメディア制作1	★★★★★ ▽マルチメディア制作2
★ △総合講座(イン・エコ)		★★★ インターネット準備講座	★★★ インターネット準備講座	★★★ インターネット準備講座	★★★ インターネット準備講座	★★★★★ △情報科学特別講義1	★★★★★ ▽情報科学特別講義2

 : 必修科目
 : 難易度を表している。
 : キャリア科目

 : 基本選択科目

 : 基幹選択科目

 : 自由選択科目

 : 一般科目

情報システム・プログラミング分野一般型履修モデル

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門	★ ▽専門演習入門	★ △ビジネスデータ分析1	★ ▽ビジネスデータ分析2	★ △ビジネスデータ分析1	★ ▽ビジネスデータ分析2	★ △IT入門	★ ▽専門演習2
★ △経営学入門	★ ▽経営学入門	★ △プログラミング1	★ ▽プログラミング2	★ △プログラミング1	★ ▽プログラミング2	★ △経営学入門	★ ▽専門演習1
★ △△情報処理入門	★ ▽△情報処理入門	★ △システム開発論	★ ▽システム開発論	★ △システム開発論	★ ▽システム開発論	★ △システム開発論	★ ▽システム開発論
★ ▽情報と職業	★ ▽△経営学	★ △マルチメディア演習	★ ▽マルチメディア演習	★ △マルチメディア演習	★ ▽マルチメディア演習	★ △マルチメディア演習	★ ▽マルチメディア演習
★ △情報化社会論	★ ▽△情報化社会論	★ △ネットワーク論	★ ▽ネットワーク論	★ △ネットワーク論	★ ▽ネットワーク論	★ △ネットワーク論	★ ▽ネットワーク論
★ △総合講座(イン・エコ)	★ ▽情報産業論	★ △△情報処理技術の基礎講座1	★ ▽△情報処理技術の基礎講座1	★ △情報処理技術の基礎講座1	★ ▽情報処理技術の基礎講座1	★ △情報処理技術の基礎講座1	★ ▽情報処理技術の基礎講座1
	★ ▽コンピュータと法	★ △インターネット準備講座	★ ▽インターネット準備講座	★ △インターネット準備講座	★ ▽インターネット準備講座	★ △インターネット準備講座	★ ▽インターネット準備講座
	★ △情報デザイン1	★ △情報デザイン2	★ ▽情報デザイン1	★ △情報デザイン1	★ ▽情報デザイン2	★ △情報デザイン1	★ ▽情報デザイン2
	★ △ソフトウェア入門	★ △ソフトウェア入門	★ ▽ソフトウェア入門	★ △ソフトウェア入門	★ ▽ソフトウェア入門	★ △ソフトウェア入門	★ ▽ソフトウェア入門
	★ △情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義2	★ ▽情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義1	★ ▽情報科学特別講義2	★ △情報科学特別講義1	★ ▽情報科学特別講義2
	★ △情報科学特別講義2	★ △情報科学特別講義1	★ ▽情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義1	★ ▽情報科学特別講義2	★ △情報科学特別講義1	★ ▽情報科学特別講義2

: 必修科目 : 基本選択科目 : 自由選択科目
 ★印は科目の難易度を表している。 : 基幹選択科目 : キャリア科目 : 一般科目

情報システム・プログラミング分野特化型履修モデル

(情第11表-11)

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
★ △IT入門	★ △経営学入門	★ △ビジネスデータ分析1	★ ▽専門演習入門	★ △ビジネスデータ分析2	★ ▽専門演習1	★ △ゲーム制作1	★ ▽ゲーム制作2
★ ▽経営学	★ ▽経営学入門	★ ▽システム開発論	★ ▽システム開発論	★ ▽データベース演習	★ システム制作	★ △ゲーム制作1	★ ▽ゲーム制作2
★ △プログラミング1	★ △コンピュータ構成論	★ △コンピュータ構成論	★ △コンピュータ構成論	★ △情報デザイン1	★ △情報デザイン1	★ △CG1	★ △CG2
★ △マルチメディア演習	★ △ネットワーク演習	★ △情報処理技術の基礎講座2	★ △プログラミング言語論	★ △情報デザイン2	★ △ソフトウェアチューニング	★ △情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義2
★ △情報処理技術の基礎講座1	★ △情報産業論	★ △情報化社会論	★ △プログラミング言語論	★ △ソフトウェアチューニング講座	★ △ソフトウェアチューニング	★ △情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義2
★ ▽情報と職業	★ △情報と職業	★ ▽インターンシップ準備講座	★ ▽デジタルコミュニケーション	★ ▽デジタルコミュニケーション	★ インターンシップ準備講座	★ △情報科学特別講義1	★ △情報科学特別講義2
★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)	★ △総合講座(イン・エコ)

 : 必修科目 : 基本選択科目 : 基本選択科目 : 自由選択科目
 ★印は科目の難易度を表している。 : キュリア科目 : 一般科目

L 他学部受講科目

CONTENTS

1. 副専攻プログラム…………… L-1
(テーマ別他学部受講科目)
2. その他の他学部受講科目…………… L-5

1. 副専攻プログラム（テーマ別他学部受講科目）

(1) 副専攻制度（テーマ別他学部受講科目）

所属学部の学位（主専攻）に加え、特定分野の学習成果を認証する制度である。

専門分野の勉学成果は、卒業時に「学士」という学位の称号を得ることで、社会的に認知される。本制度は一定の条件を満たした学生に対し、大学で特定分野を学んだことの証明として公的な認定である「副専攻（テーマ別他学部受講科目）修了証書」を授与する制度である。

(2) プログラム内容

副専攻プログラム（テーマ別他学部受講科目）は各学部で開講されている学科科目をテーマごとに編成した科目群である。以下の7つのプログラムを開設しており、いずれのプログラムも各学部から厳選された独自性のある科目である。

各学部に設置された○印のプログラムが受講可能な科目である。

プログラム	受講できるプログラム				
	経済学部	流通学部	経営情報学部	国際コミ学部	国際観光学部
実践ビジネス	○	—	○	○	○
スポーツ	○	—	○	○	○
経営	○	○	—	○	○
AIデータサイエンス(※)	○	○	—	○	○
グローバル	○	○	○	—	○
メディア・心理	○	○	○	—	○
観光	○	○	○	○	—

(※)2021年度以降入学生のみ履修可能。

(3) 副専攻プログラム（テーマ別他学部受講科目）の履修

本制度を履修する場合は、Web履修登録前の指定された期間内にHInTシステムの「希望資格登録」画面で希望する専攻を登録すること（複数の副専攻プログラムを登録することも可能）。

修了に必要な単位数は、各プログラムで16単位以上である。

なお、卒業要件に含まれる単位数は22単位までとなるが※、卒業要件を越えて修得しても、該当プログラムの「副専攻（テーマ別他学部受講科目）修了証書」を授与する。

副専攻プログラムの科目は各学部の履修制限単位数に含まれる。※履修要綱C-2を参照

(4) 副専攻プログラム科目一覧

○ 受講可能 自学部配当科目 × 受講不可

副専攻	テーマ	配当学部	科目名	単位	学部					必要単位						
					年次	E	B	I	G		T					
実践ビジネス	ベーシックビジネス	B	アジア市場論	2	2	○	○	○	○	○	合計16単位以上					
			アメリカ市場論	2	2	○	○	○	○	○						
			マーケティング戦略	2	3	○	×	○	○	○						
			マーチャндаイジング	2	3	○	○	○	○	○						
			管理会計	2	2	○	×	○	○	○						
			企業社会論	2	2	○	×	○	○	○						
			企業分析	2	2	○	×	○	○	○						
			工業簿記	2	2	○	○	○	○	○						
			国際貿易論	2	3	○	×	○	○	○						
			商品開発論	2	2	○	○	○	○	○						
			消費生活論	2	3	○	○	○	○	○						
			マネジメント特講	2	3	○	○	○	○	○						
			リーダーシップ論	2	2	○	○	○	○	○						
			ロジスティクス	2	2	○	○	○	○	○						
			流通ビジネス	2	3	○	○	○	○	○						
			労働法1	2	2	○	○	○	○	○						
			労働法2	2	2	○	○	○	○	○						
	エンターテインメントビジネス	2	2	○	○	○	○	○								
	プロフェッショナルビジネス			銀行ビジネス	2	3	○	○	○	○		合計16単位以上				
				交通ビジネス	2	2	○	○	○	○						
				コンテンツビジネス	2	2	○	○	○	○						
				サービスビジネス	2	1	○	○	○	○						
				サービスビジネス特講	2	3	○	○	○	○						
				証券ビジネス	2	3	○	○	○	○						
				ストアオペレーション	2	3	○	○	○	○						
				ソーシャルビジネス	2	2	○	○	○	○						
				ビジネス実務	2	2	×	○	○	○						
				フードビジネス	2	2	○	○	○	○						
				ブライダルビジネス	2	2	○	○	○	○						
				ブライダルマネジメント	2	2	○	○	○	○						
				ブライダル実務	2	2	○	○	○	○						
				ホスピタリティマネジメント	2	1	○	○	○	×						
				観光	観光文化	T	アーバンツーリズム論	2	2	○			○	○	○	合計16単位以上
							アジアの地域と観光	2	2	○			○	○	○	
アフリカの地域と観光							2	2	○	○	○		○			
アメリカの地域と観光	2	2	○				○	○	○							
エコツーリズム論	2	2	○				○	○	○							
オセアニアの地域と観光	2	2	○				○	○	○							
観光と芸術	2	2	○				○	○	○							
観光と宗教	2	2	○				○	○	○							
観光民俗学	2	2	○				○	○	○							
観光	観光文化		コミュニティツーリズム論				2	2	○	○	○	○	合計16単位以上			
			食文化論	2	2	○	○	○	○							
			世界遺産論	2	2	○	○	○	○							
			文化財論	2	2	○	○	○	○							
			ヨーロッパの地域と観光	2	2	○	○	○	○							
			レジャー文化論	2	2	○	○	○	○							
			観光事業	T		環境計画論	2	2	○	○	○	○				
						観光まちづくり論	2	2	○	○	○	○				
						観光会計論	2	2	○	○	○	○				
						観光企業論	2	2	○	○	○	○				
						観光交通論	2	2	○	○	○	○				
						観光資源解説方法論	2	2	○	○	○	○				
						観光情報論	2	2	○	○	○	○				
						航空産業論	2	2	○	○	○	○				
						集客産業施設運営論	2	2	○	○	○	○				
						民間協力 (NGO/NPO) 論	2	2	○	○	○	○				
						旅行ビジネス論	2	2	○	○	○	○				
	グローバル	G					関西学	2	1	○	○	○		○		
							現代アメリカ文化論	2	1	○	○	○		○		
							多文化社会論	2	2	○	○	○		○		
							都市文化論 (アジア)	2	1	○	○	○		○		
							都市文化論 (ヨーロッパ)	2	1	○	○	○		○		
							都市文化論 (日本)	2	1	○	○	○		○		
			日本風俗研究	2	2		○	○	○	○						
			文化交流史 (アジア)	2	1		○	○	○	○						
			文化交流史 (アメリカ)	2	1		○	○	○	○						
			文化交流史 (ヨーロッパ)	2	1		○	○	○	○						
			キャビンアテンダントプログラム1	2	2		○	○	○	○						
			キャビンアテンダントプログラム2	2	2		○	○	○	○						
			キャビンアテンダントプログラム3	2	2		○	○	○	○						
			キャビンアテンダントプログラム4	2	2		○	○	○	○						
			グローバル・イシュー	2	1		○	○	○	○						
			グローバル・ガバナンス論	2	2		○	○	○	○						
			グローバル研究				現代社会論	2	2	○	○	○		○		
国際関係史	2	2				○	○	○	○							
地域研究1	2	1				○	○	○	○							
地域研究2	2	1				○	○	○	○							
日本の政治と外交	2	1				○	○	○	○							
比較政治学	2	2				○	○	○	○							
平和と宗教	2	2				○	○	○	○							

副専攻	テーマ	配当学部	科目名	単位	年次	学部					必要単位	
						E	B	I	G	T		
スポーツ	スポーツアスリート		アスリートキャリア1	2	2	○	○	○	○	○		
			アスリートキャリア2	2	2	○	○	○	○	○		
			スポーツゲーム分析	2	2	○	○	○	○	○		
			スポーツトレーニング論	2	3	○	○	○	○	○		
			スポーツ医学1	2	2	○	○	○	○	○		
			スポーツ医学2	2	2	○	○	○	○	○		
			スポーツ栄養・食事学	2	2	○	○	○	○	○		
			スポーツ技術論	2	1	○	○	○	○	○		
			スポーツ競技力入門	2	1	○	○	○	○	○		
			バイオメカニクス	2	3	○	○	○	○	○		
			運動生理学	2	2	○	○	○	○	○		
			発育発達論	2	2	○	○	○	○	○		
	スポーツマネジメント	B		コーチング論1	2	3	○	○	○	○	○	
				コーチング論2	2	3	○	○	○	○	○	
				スポーツツーリズム	2	3	○	○	○	○	○	
				スポーツと社会1	2	1	○	○	○	○	○	
				スポーツと社会2	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツマネジメントリサーチ	2	3	○	○	○	○	○	
				スポーツマネジメント入門	2	1	○	○	○	○	○	
				スポーツ業界研究	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ産業論	2	3	○	○	○	○	○	
				スポーツ心理学	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特講1	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特講2	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特殊講義1	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特殊講義2	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特殊講義3	2	2	○	○	○	○	○	
				スポーツ特殊講義4	2	2	○	○	○	○	○	
				応用スポーツマネジメント	2	2	○	○	○	○	○	
				地域スポーツクラブ論	2	2	○	○	○	○	○	
				野球ビジネス論	2	2	○	○	○	○	○	
	メディア・心理	心理学		キャリア心理学	2	1	○	○	○	○	○	
				ファッションと化粧の心理学	2	1	○	○	○	○	○	
消費者行動の心理学				2	2	○	○	○	○	○		
働く人と組織の心理学				2	2	○	○	○	○	○		
メディア		G		キャラクター論	2	2	○	○	○	○	○	
				マスコミュニケーション論	2	1	○	○	○	○	○	
				メディア・情報文化史	2	1	○	○	○	○	○	
				メディア表現論	2	2	○	○	○	○	○	
				音楽産業論	2	2	○	○	○	○	○	
				広告文化論	2	2	○	○	○	○	○	
				情報メディアと社会制度	2	1	○	○	○	○	○	
				放送文化論	2	2	○	○	○	○	○	
合計16単位以上												

副専攻	テーマ	配当学部	科目名	単位	年次	学部					必要単位	
						E	B	I	G	T		
経営	情報マネジメント		eコマース経営論	4	3	○	×	○	○	○		
			インターネットマーケティング	2	3	○	○	○	○	○		
			デジタルコミュニケーション	2	1	○	○	○	○	○		
			ファッションとIT	2	1	○	○	○	○	○		
			経営科学	4	2	○	○	○	○	○		
			経営情報論	4	3	○	○	○	○	○		
			情報と職業	2	1	○	○	○	○	○		
			情報会計論	4	3	○	○	○	○	○		
			情報産業論	2	1	○	○	○	○	○		
			情報処理技術の基礎講座1	4	1	○	○	○	○	○		
			情報処理技術の基礎講座2	4	1	○	○	○	○	○		
			総合講座(インターネット・エコノミー)	2	1	○	○	○	○	○		
			イノベーション論	2	2	○	○	○	○	○		
			グローバルコミュニケーション	2	1	○	○	○	○	○		
			シミュレーション法	2	3	○	○	○	○	○		
			ビジネスモデル論	2	2	○	○	○	○	○		
			マーケティングリサーチ	2	3	○	×	○	○	○		
			マーケティング論	4	2	○	×	○	○	○		
			企業と倫理	2	2	○	○	○	○	○		
	コアマネジメント	I		経営モデル分析	2	3	○	○	○	○	○	
				経営管理論	4	2	○	○	○	○	○	
				経営史	4	2	○	○	○	○	○	
				経営実践講座a	2	2	○	○	○	○	○	
				経営実践講座b	2	2	○	○	○	○	○	
				経営数学	4	2	○	○	○	○	○	
				経営組織論	4	3	○	○	○	○	○	
				現代株式会社論	4	3	○	○	○	○	○	
				国際マーケティング	4	2	○	○	○	○	○	
				国際経営論	2	2	○	○	○	○	○	
				国際産業論	2	2	○	○	○	○	○	
				財務会計システム論	4	2	○	×	○	○	○	
				数理統計学	4	3	○	○	○	○	○	
				先端技術論(※1)	4	2	○	○	○	○	○	
多国籍企業論	4	3	○	○	○	○	○					
多変量解析	2	3	○	○	○	○	○					
中小企業家同友会寄付講座	2	3	○	○	○	○	○					
日本型経営論	2	3	○	○	○	○	○					
販売管理論1	2	2	○	×	○	○	○					
販売管理論2	2	3	○	×	○	○	○					
合計16単位以上												

(※1)2020年度以前配当科目のため、2021年度入学生は履修不可である。

副専攻	テーマ	配当 学部	科目名	単 位	年 次	学部					必要 単位
						E	B	I	G	T	
AI・データサイエンス (※2)	数理科目	I	数学a	2	1	○	○	○	○	○	4 単位 以上
			数学b	2	1	○	○	○	○	○	
			経営数学	4	2	○	○	○	○	○	
			経営科学	4	2	○	○	○	○	○	
	統計科目		統計学a	2	1	○	○	○	○	○	4 単位 以上
			統計学b	2	1	○	○	○	○	○	
			数理統計学	4	3	○	○	○	○	○	
			経営統計学	4	3	○	○	○	○	○	
			多変量解析	2	3	○	○	○	○	○	
	情報科目		情報科学a	2	1	○	○	○	○	○	2 単位 以上
			情報科学b	2	1	○	○	○	○	○	
			システム開発論	2	2	○	○	○	○	○	
			データベース論	2	2	○	○	○	○	○	
			マルチメディア論	2	2	○	○	○	○	○	
	データサイエンス 科目		AI・データサイエンス入門1	2	2	○	○	○	○	○	6 単位 以上
			AI・データサイエンス入門2	2	2	○	○	○	○	○	
			AI・データサイエンス基礎1	2	2	○	○	○	○	○	
			AI・データサイエンス基礎2	2	2	○	○	○	○	○	
			データサイエンス実践	2	3	○	○	○	○	○	
			AIプログラミング実践	2	3	○	○	○	○	○	
合計16単位以上											

(※2) 2021年度以降入学生が受講できる副専攻プログラムである。

2. その他の他学部受講科目

(1) 他学部受講科目一覧

副専攻プログラムに設定していない他学部受講科目についても22単位まで卒業要件に含まれるため、あわせて確認すること。

○ 受講可能 自学部配当科目 × 受講不可

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
E	アジア経済論 a	2	2	○	○	○	○	○
E	アジア経済論 b	2	2	○	○	○	○	○
E	営業活動実務	4	2	○	○	○	○	○
E	F P 技能	4	2	○	○	○	○	○
E	会社法 a	2	3	×	○	○	○	○
E	会社法 b	2	3	×	○	○	○	○
E	開発経済論 a	2	2	○	○	○	○	○
E	開発経済論 b	2	2	○	○	○	○	○
E	環境経済論 a	2	2	○	○	○	○	○
E	環境経済論 b	2	2	○	○	○	○	○
E	企業経済学 a	2	2	○	○	○	○	○
E	企業経済学 b	2	2	○	○	○	○	○
E	企業取引法	4	3	○	○	○	○	○
E	行政法 a	2	3	○	○	○	○	○
E	行政法 b	2	3	○	○	○	○	○
E	金融史	2	2	○	○	○	○	○
E	金融実務 a	2	2	○	○	○	○	○
E	金融実務 b	2	2	○	○	○	○	○
E	金融商品実務	4	2	○	○	○	○	○
E	金融論 1	4	2	○	○	○	○	○
E	グローバル・ビジネス論 a	2	2	×	○	○	○	○
E	グローバル・ビジネス論 b	2	2	×	○	○	○	○
E	経済学史	4	1	○	○	○	○	○
E	経済数学	4	2	○	○	○	○	○
E	経済政策	4	2	○	○	○	○	○
E	経済成長論	4	3	○	○	○	○	○
E	経済地理学 a	2	2	○	○	○	○	○
E	経済地理学 b	2	2	○	○	○	○	○
E	経済統計学	4	3	○	○	○	○	○
E	経済法 a	2	3	×	○	○	○	○
E	経済法 b	2	3	×	○	○	○	○
E	刑法 a	2	2	○	○	○	○	○
E	刑法 b	2	2	○	○	○	○	○
E	ゲーム理論	4	3	○	○	○	○	○
ET	現代地理学	4	1	○	○	○	○	○

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
E	憲法 a	2	2	○	○	○	○	○
E	憲法 b	2	2	○	○	○	○	○
E	公共経済学 a	2	2	○	○	○	○	○
E	公共経済学 b	2	2	○	○	○	○	○
E	国際競争法 a	2	2	○	○	○	○	○
E	国際競争法 b	2	2	○	○	○	○	○
E	国際金融論	4	3	○	×	○	○	○
ET	国際経済学 1	4	2	○	○	○	○	○
E	国際法	4	3	○	○	○	○	○
E	財政学 1 a	2	2	○	○	○	○	○
E	財政学 1 b	2	2	○	○	○	○	○
E	産業組織論	4	3	○	○	○	○	○
E	実務講座 A	2	2	○	○	○	○	○
E	実務講座 B	2	2	○	○	○	○	○
E	社会政策 a	2	2	○	○	○	○	○
E	社会政策 b	2	2	○	○	○	○	○
E	情報経済学	4	2	○	○	○	○	○
E	生活経済論 a	2	1	○	○	○	○	○
E	生活経済論 b	2	1	○	○	○	○	○
E	政治経済学 a	2	2	○	○	×	○	○
E	政治経済学 b	2	2	○	○	×	○	○
ET	西洋史概説	4	1	○	○	○	○	○
E	世界経済史 a	2	2	○	○	○	○	○
E	世界経済史 b	2	2	○	○	○	○	○
ET	世界地誌学 a	2	2	○	○	○	○	○
ET	世界地誌学 b	2	2	○	○	○	○	○
E	地域経済論 a	2	2	○	○	○	○	○
E	地域経済論 b	2	2	○	○	○	○	○
E	地方財政	2	2	○	○	○	○	○
E	中小企業・ベンチャー論 a	2	2	×	×	○	○	○
E	中小企業・ベンチャー論 b	2	2	×	×	○	○	○
ET	哲学概論	4	2	○	○	○	○	○
E	統計学 1 a	2	2	○	×	○	○	○
ET	東洋史概説	2	1	○	○	○	○	○
E	日本経済史 a	2	1	○	○	○	○	○

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
E	日本経済史 b	2	1		○	○	○	○
E	日本経済論 a (※1)	2	2		○	×	○	○
E	日本経済論 b (※1)	2	2		○	×	○	○
ET	日本史概説 1	2	1		○	○	○	
ET	日本史概説 2	4	1		○	○	○	
ET	日本地誌学 a	2	1		○	○	○	
ET	日本地誌学 b	2	1		○	○	○	
E	農業経済論	4	2		○	○	○	○
E	ファイナンス論	2	2		○	○	○	○
E	貿易実務実践	2	3		○	○	○	○
E	貿易実務入門	2	2		○	○	○	○
E	法学検定刑法	4	2		○	○	○	○
E	法学検定憲法	4	2		○	○	○	○
E	法学検定民法	4	2		○	○	○	○
E	簿記初級	4	1		×	×	○	○
E	簿記中級	2	2		×	×	○	○
E	マクロ経済学 1 (※1)	4	2		○	○	○	○
E	ミクロ経済学 1 (※1)	4	2		○	○	○	○
E	民法 a	2	2		×	○	○	○
E	民法 b	2	2		×	○	○	○
E	ヨーロッパ経済論 a	2	3		○	○	○	○
E	ヨーロッパ経済論 b	2	3		○	○	○	○
ET	倫理学概論	4	2		○	○	○	
E	レポート作成の基礎	2	2		○	○	○	○
E	労働経済論 a	2	2		○	○	○	○
E	労働経済論 b	2	2		○	○	○	○
B	経営財務論	2	2	○		×	○	○
B	消費者政策	2	2	○		○	○	○
BI	職業指導	4	2	○			○	○
B	人的資源管理論	2	2	○		×	○	○
B	税法 1	2	2	×		○	○	○
B	税法 2	2	2	×		○	○	○
B	専門書講読 1	2	2	×		○	○	○
B	専門書講読 2	2	2	×		○	○	○
B	特殊講義 1	2	2	○		○	○	○
B	特殊講義 2	2	2	○		○	○	○
B	ビジネスアプリケーション 1	2	1	×		×	○	○
B	ビジネスアプリケーション 2	2	1	×		×	○	○
B	プロジェクト演習 1	2	3	○		○	○	○
B	プロジェクト演習 2	2	3	○		○	○	○
B	プロジェクト演習 3	2	3	○		○	○	○
B	プロジェクト演習 4	2	3	○		○	○	○
B	流通学特別講義 1	2	1	○		○	○	○

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
B	流通学特別講義 1 0	2	2	○		○	○	○
B	流通学特別講義 1 1	2	2	○		○	○	○
B	流通学特別講義 1 2	2	2	○		○	○	○
B	流通学特別講義 2	2	1	○		○	○	○
B	流通学特別講義 3	2	1	○		○	○	○
B	流通学特別講義 4	2	1	○		○	○	○
B	流通学特別講義 5	2	1	○		○	○	○
B	流通学特別講義 6	2	1	○		○	○	○
B	流通学特別講義 7	2	2	○		○	○	○
B	流通学特別講義 8	2	2	○		○	○	○
B	流通学特別講義 9	2	2	○		○	○	○
B	流通システム論	2	2	○		○	○	○
B	流通政策	2	2	○		○	○	○
I	AI数学入門	2	2	○	○		○	○
I	e ビジネス論	2	2	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 1 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 2 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 3 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 4 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 5 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義 6 (※2)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義A (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義B (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義C (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義D (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義E (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営情報特別講義F (※3)	2	1	○	○		○	○
I	経営戦略論	4	2	○	×		○	○
I	経営統計学	4	3	○	○		○	○
I	システム開発論	2	2	○	○		○	○
I	情報科学特別講義 1	2	3	○	○		○	○
I	情報科学特別講義 2	2	3	○	○		○	○
I	データベース論	2	2	○	○		○	○
I	マルチメディア論	2	3	○	○		○	○
G	Academic Reading 1	1	2	○	○		○	○
G	Academic Reading 2	1	2	○	○		○	○
G	映像中国語	1	2	○	○		○	○
G	Essay Writing 1	1	2	○	○		○	○
G	Essay Writing 2	1	2	○	○		○	○
G	海外生活の心理学	2	1	○	○		○	○
GT	観光とホスピタリティの心理学	2	1	○	○		○	○
G	韓国語で日本案内	1	2	○	○		○	○
G	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	1	1	○	○		○	○

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
G	語学特殊講座 A	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 B	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 C	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 D	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 E	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 F	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 G	1	2	○	○	○		○
G	語学特殊講座 H	1	2	○	○	○		○
GT	国際協力論	2	2	○	○	○		
GT	国際平和論	2	3	○	○	○		
G	実用韓国語 2 a	1	2	○	○	○		○
G	実用韓国語 2 b	1	2	○	○	○		○
G	実用中国語 2 a	1	2	○	○	○		○
G	実用中国語 2 b	1	2	○	○	○		○
G	接客のための中国語	1	2	○	○	○		○
GT	対人コミュニケーション心理学	2	2	○	○	○		
G	台湾華語	1	1	○	○	○		○
G	多様性の文化論	2	2	○	○	○		○
G	中国語検定講座 a	1	1	○	○	○		○
G	中国語検定講座 b	1	1	○	○	○		○
G	中国語で日本案内	1	2	○	○	○		○
G	資格ビジネス英語 3	1	1	○	○	○		○
G	資格ビジネス英語 4	1	1	○	○	○		○

配当学部	科目名	単位	年次	学部				
				E	B	I	G	T
G	通訳入門	1	1	○	○	○		○
G	Debate and Presentation	1	2	○	○	○		○
G	トラベル韓国語	1	1	○	○	○		○
G	ネットビジネス中国語	1	1	○	○	○		○
G	Business English	1	2	○	○	○		○
G	ポスト留学韓国語	1	1	○	○	○		○
G	ポスト留学中国語	1	1	○	○	○		○
G	翻訳入門	1	1	○	○	○		○
T	アジアの美術	2	2	○	○	○		○
T	観光調査法	2	2	○	○	○		○
T	国際社会と人間	2	2	○	○	○		○
T	宿泊産業論	2	2	○	○	○		○
T	日本文化史 a	2	2	○	○	○		○
T	日本文化史 b	2	2	○	○	○		○
T	文化地理学	4	1	○	○	○		○
T	環境倫理学	2	3	○	○	○		○

○	受講可能
■	自学部配当科目
×	受講不可

- (※1) 国際観光学部2019年度以降入学生については自学部学科での配当科目である。
(※2) 2018・2019・2020年度入学生のみ対象科目である。
(※3) 2021年度入学生のみ対象科目である。

補足. 本学における数理・データサイエンス・AI教育

本学学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的に学んでもらうことを目的として以下のプログラムを設置する。

数理・データサイエンス・AIプログラム

【リテラシーレベル】

AI データサイエンスリテラシーパッケージ

科目区分	科目名	単位	期間	配当学科	配当年次
一般教育科目 (情報とメディア)	AI データサイエンス総論※	2	後期	EBIGT 全学部全学科	1234
一般教育科目 (情報とメディア)	AI・データサイエンス入門1	2	前期	EBIGT 全学部全学科	234
一般教育科目 (情報とメディア)	AI・データサイエンス入門2	2	後期	EBIGT 全学部全学科	234

上記3科目6単位を修得することでパッケージ修了証を発行する。

※AI データサイエンス総論は2021年度以前生は教養演習2aが対象科目となります。

【応用基礎レベル】

AI データサイエンス応用基礎パッケージ

科目区分	科目名	単位	期間	配当学科	配当年次
一般教育科目 (情報とメディア)	AI データサイエンス総論	2	後期	EBIGT 全学部全学科	1234
一般教育科目 (情報とメディア)	AI・データサイエンス入門1	2	前期	EBIGT 全学部全学科	234
一般教育科目 (情報とメディア)	AI・データサイエンス入門2	2	後期	EBIGT 全学部全学科	234
※	AI 数学入門	2	後期	EBIGT 全学部全学科	1234
※	AI・データサイエンス基礎1	2	前期	EBIGT 全学部全学科	234
※	AI・データサイエンス基礎2	2	後期	EBIGT 全学部全学科	1234

※経営情報学部は学科科目(自由選択)、その他の学部は他学部受講科目として卒業所要単位に算入される。

【エキスパートレベル】

○経営情報学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

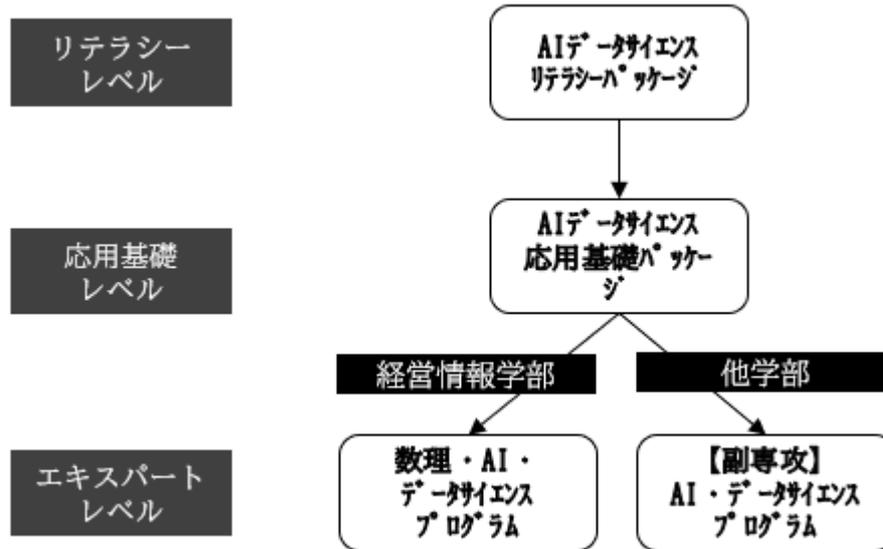
※履修要綱 H-15 頁参照

○経営情報学部以外 【副専攻】 AI・データサイエンスプログラム

※履修要綱 L-4 頁参照

本学におけるAIデータサイエンス教育履修系統図

履修の制限は設けていないが、リテラシーレベル→応用基礎レベル→エキスパートレベルの順で履修していくことが望ましい。



○教務委員会規程

(平成3年4月1日制定)

改正 平成9年4月1日 平成12年4月1日
平成18年4月1日 平成23年4月1日
平成26年1月21日

(目的)

第1条 本学に、教務に関する重要事項を審議し、かつ教務部長の日常業務の執行を補佐するため、教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の者で構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部教授会選出の専任教員 各1名
- (3) 教務部事務部長
- (4) 教務課長
- (5) 教育情報課長

2 委員長は教務部長とする。

(委嘱)

第3条 委員の委嘱は、学長が行う。

(任期)

第4条 第2条第1項第1号、第3号及び第4号委員の任期は、当該役職在任期間とする。

2 第2条第1項第2号の委員の任期は、1年とし、再任は妨げない。

3 第2条第1項第2号の委員が任期満了前に欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残余の期間とする。

(招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長に事故あるときは、委員の互選により委員長代理を置き、委員長の職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員長は、必要に応じて委員以外の関係者に出席を求め、その意見を聴取することができる。

(審議事項)

第7条 委員会は、次の事項を審議し、各学部及び大学院研究科の連絡調整にあたるものとする。

- (1) 学部の学科課程及び教育課程に関する事項
- (2) 学部の授業、学内試験及び成績に関する事項
- (3) 学部の学籍、入学、卒業及びその他学生の身分に関する事項
- (4) 学部の科目等履修生、聴講生及び外国人留学生に関する事項
- (5) 教務部の予算に関する事項
- (6) その他教学に関する事項

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務部教務課が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成9年4月1日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年4月1日)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成23年4月1日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成26年1月21日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

(目的)

第1条 大学教育センター規程第8条に基づき、Society5.0に対応するAI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行うため、その教育に関する研究を統轄するAI・データサイエンス教育研究所(以下「研究所」という。)を大学教育センター長の諮問機関として設置する。

(事業)

第2条 研究所は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究
- (2) 各学部の専門分野とAI・データサイエンスの連携に関する研究並びにAI・データサイエンスとのコラボレーション科目の授業設計
- (3) AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
- (4) その他前条の目的を達成するために必要と認められる事業

(所長)

第3条 研究所に所長を置く。所長は研究所を代表し、その業務を統轄する。
2 所長は、本学専任教員から大学教育センター長が指名し、学長が任命する。
3 所長の任期は、所長を指名した大学教育センター長の在任期間とする。

(副所長)

第4条 研究所に副所長を置くことができる。副所長は、所長の職務を補佐する。
2 副所長は、本学専任教員から所長が指名し、学長が任命する。
3 副所長の任期は、当該副所長を指名した所長の在任期間とする。

(研究員)

第5条 研究所に研究員を置く。
2 研究員は所長が指名するAI・データサイエンス及び数理に見識のある専任教員とし、学長が任命する。
3 研究員は、第2条に定める事業の研究及び調査を行い、その結果を所長に報告する。
4 研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(顧問)

第6条 研究所に、必要に応じて顧問を置くことができる。
2 顧問については別に定める。

(事務)

第7条 研究所の事務は、教務部教育情報課が行う。

(細則等)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

○大学教育センター運営委員会規程

(平成23年4月1日制定)

改正 平成24年4月1日 平成26年3月14日
平成29年3月3日 平成31年3月28日

(目的)

第1条 この規程は、大学教育センター規程第6条第2項に基づき、大学教育センター運営委員会(以下「委員会」という。)について定めることを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の者で構成する。

- (1) 大学教育センター長(以下「センター長」という。)
- (2) 大学教育センター副センター長(以下「副センター長」という。)
- (3) 各学部選出の専任教員 各1名
- (4) 教務部事務部長
- (5) 教務課長及び教育情報課長

2 委員長は、センター長とする。

(委嘱)

第3条 前条第1項第3号の委員の委嘱は、学長が行う。

(任期)

第4条 第2条第1項第1号、第2号、第4号、第5号の委員の任期は、当該役職在任期間とする。

2 第2条第1項第3号の委員の任期は1年とし、重任を妨げない。

(運営)

第5条 委員会は委員長が召集し、議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副センター長が委員長の職務を代理する。

3 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

4 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

(審議事項)

第6条 委員会は次の事項を審議し、各学部、大学院研究科及び各部局との連絡調整にあたるものとする。

- (1) 導入教育の施策に関する事項
- (2) キャリア教育の施策に関する事項
- (3) 大学全体のFD・SDの基本方針等の策定と実施に関する事項
- (4) 学修支援の施策と実施に関する事項
- (5) センターの予算に関する事項
- (6) その他、教育プログラムの開発、教育支援に関する事項

(部会の運営)

第7条 大学教育センター規程第7条に定める部会の運営のために、部会運営委員会を置く。

(部会運営委員会の構成)

第8条 各部会運営委員会の組織、構成等については、別表のとおりとする。

2 各部会運営委員会は、必要に応じて関係者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務局)

第9条 委員会の事務は、教務部教育情報課が行う。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月14日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月3日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月28日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

別表

部会名	委員会名	構成員	事務局
各学部・研究科FD部会	流通学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	経済学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	経営情報学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	国際コミュニケーション学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	国際観光学部FD部会運営委員会	学部任命委員	教務部教務課
	大学院企業情報研究科FD部会運営委員会	研究科任命委員	教務部教務課
SD部会	SD部会運営委員会	センター長、副センター長、学長室入試担当部長、法人部長、教務部事務部長、事務職員会委員長	教務部教育情報課

AIデータサイエンス 応用基礎パッケージ 取組概要

<概要>

阪南大学では次世代型実学教育として、AI・データサイエンス教育プログラムを用意しています。

2021年度より開始したAI データサイエンス・応用基礎パッケージは、リテラシーパッケージの次なる段階として位置づけ、さらにエキスパートレベルへの橋渡しとなるプログラムとなっております。

下記の対象科目(6科目)を履修・修得した人には、認定証を発行します。

AIデータサイエンス総論(別)教養演習 2 a	1234	2	急速な発展を遂げている「AI(人口知能)」について学べる導入科目です。
AIデータサイエンス入門 1	234	2	機会学習AIの仕組みを学び、自身の専門分野に活用できるように検討・企画・立案できるようになることをめざす実習科目です。
AIデータサイエンス入門 2	234	2	
AI数学入門	1234	2	AIやデータサイエンスを学ぶための数学的準備科目です。
AIデータサイエンス基礎 1	234	2	ビッグデータ時代をうまく乗りこなすためのAI・データサイエンスの諸技術の習得を目指した科目です。
AIデータサイエンス基礎 2	234	2	

阪南大学のAIデータサイエンス教育の全体像

リテラシー
レベル

AIデータサイエンス
リテラシーパッケージ
(一般教育科目で構成 | 全学受講可)

応用基礎
レベル

AIデータサイエンス
応用基礎パッケージ
(一般教育科目/学科科目(他学部受講
科目)で構成 | 全学受講可)

経営情報学部以外

経営情報学部

【副専攻】
AI・データサイエンス
プログラム
(一般教育科目/他学部受講科目
で構成)

エキスパート
レベル

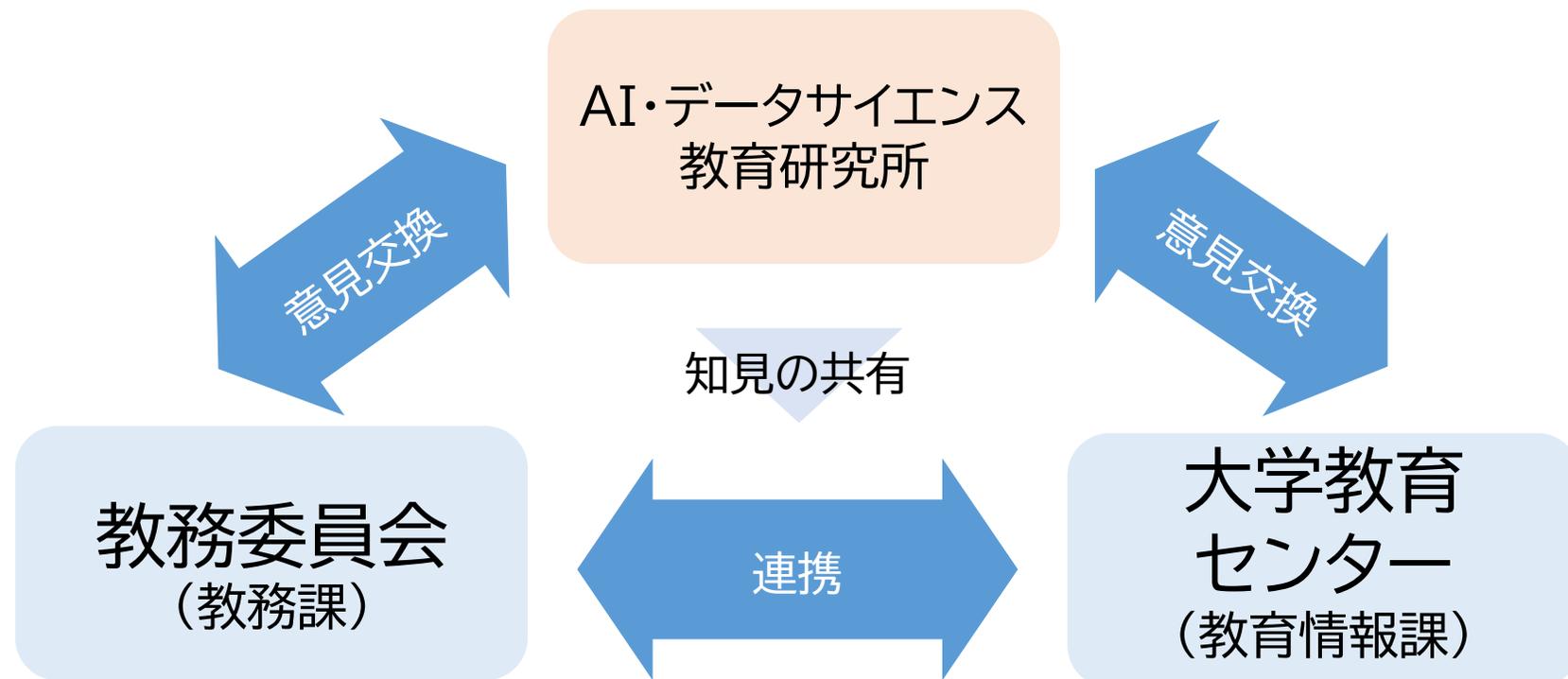
数理・データサイエンス
・AI教育プログラム
(経営情報学部学科科目で構成)

今後の計画

- ・2020年度にリテラシーパッケージを新設し、その翌年度に応用基礎パッケージを設置した。
- ・2024年度にはリテラシーパッケージの構成科目のうちAIデータサイエンス総論を**全学必修科目**とすることが決定しており、AIデータサイエンス入門1/2についても**全学部全員履修科目**に位置づけする。
- ・2022年度以降入学生については、全学必修化に先駆けて履修指導で90%以上の受講者獲得を目標としている。
- ・2022年度からは経営情報学部内にAI・データサイエンスコースを設置し、上位レベルの履修者増加を図る取り組みを行っている。

AIデータサイエンス教育の取り組み体制

- ・AIデータサイエンス教育に関する全学横断的な取組全般
- ・AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
- ・全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究



- ・LMS集積データの分析
- ・学生からの問合せサポート
- ・履修者増加施策立案実施

- ・学生アンケートの分析
- ・授業ツールの設計